

あたりまえに、 想いを込めて。

スイッチを押すと電気がつく。

テレビやエアコンがつく。

普段は気にもとめない

あたりまえの電気。

そのあたりまえを

支えている人がいる。

守っていく使命がある。

関西電力は、

CO₂を出さない

原子力発電と

再生可能エネルギー、

さらに水素等を活用した

火力のゼロカーボン化を推進。

それは、今日と未来の

かけがえのない

あたりまえのため。

2026年度通常総会開催案内

早稲田電気工学会

会長 大石 進一

拝啓、時下益々ご清栄の段お慶び申し上げます。

さて、標記通常総会（リモート会議を含む）を下記の通り開催しますので、万障お繰り合わせの上、会員のみなさまにご出席いただきます。EWEの運営・活動などについてご意見を賜りたくご案内いたします。

敬具

記

1. 日 時 2026年5月29日(金) 午後4時～7時予定
2. 場 所 早大西早稲田キャンパス55号館N棟1階 第2会議室
3. 議 題 (1) 2025年度事業経過報告および決算
(2) 2026年度事業計画および予算
(3) その他
4. 懇親会 (場所55号館 N棟1階 第2会議室)
会費5000円 当日受付時お支払いください。

* 詳細内容につきまして、EWEホームページにて4月下旬頃掲載予定です。ご出席される方は、事務局までご連絡ください。

以上

〒169-8555 東京都新宿区大久保3-4-1
早稲田大学西早稲田キャンパス内
早稲田電気工学会 事務局
電話/FAX：03-3232-9768
E-mail：jimukyoku@ewe.or.jp
URL：https://www.ewe.or.jp/

目次

○巻頭言	4
早稲田電気工学会 会長 大石 進一	
○特集「理工学術院の教育・研究の取組みや理工創設125周年のキャンパス再整備」	5
理工学術院長 戸川 望	
○講演「新たな制御工学の構築へ～人とつながる制御システムを探る～」	8
先進理工学部 電気・情報生命工学科 准教授 和佐 泰明	
○受章「瑞宝中綬章」受章記念特別寄稿 「科学技術史の側面に立ち会えたこと」	10
早稲田大学名誉教授 松山 泰男	
○退任に際して 「量子材料学とともに」	13
先進理工学部 電気・情報生命工学科 教授 武田京三郎	
○EWEニュース	15
○学生会報告 「ソフトボール大会報告」	17
学生会 委員長 野村 涼太	
○新任教員挨拶	19
先進理工学部 電気・情報生命工学科 准教授 喜久里浩之 国際理工学センター CSCE Major 教授 鷗林 尚靖 基幹理工学部 電子物理システム学科 専任講師 川村 一志	
○研究室の紹介 「高松敦子 研究室紹介」	25
先進理工学研究科 電気・情報生命専攻 修士2年 宮本 康平	
「嶋本薫 研究室紹介」	27
基幹理工学部 情報通信学科 学部4年 田辺優貴子	
「乗松航 研究室紹介」	29
基幹理工学研究科 材料科学専攻 修士2年 仁科 匠人	
○地方本部だより	31
九州地方本部／東海地方本部／東北地方本部／関西地方本部／連絡窓口一覧	
○会員だより	37
電気通信学科1961（昭36）年卒、電気通信学科1966（昭41）年卒、 電気通信学科1968（昭43）年卒	

○学生支援基金報告	
「ECCE2025参加報告」	41
先進理工学研究科 電気・情報生命専攻 近藤研究室 修士2年 加藤 大貴 (報告) 林 祐里	
○EWE活性化委員会 2025年度活動報告	43
○EWE三月会 2025年度活動報告	45
○2025年度修士論文一覧	47
○2025年度学部卒業生一覧	58
○2025年度博士号取得者一覧	63
○受賞・褒賞	64
○2025年度就職状況	72
電気・情報生命工学科／電気・情報生命専攻 就職指導担当 教授 岩崎 秀雄、井上 真郷、村田 昇	
情報理工学科・情報通信学科／情報理工・情報通信専攻 就職指導担当 教授 山名 早人、渡辺 裕、菅原 俊治	
電子物理システム学科／電子物理システム学専攻 就職指導担当 准教授 森本 雄矢	
○2025年度評議員委嘱状況	78
○2025年度終身会費納入者、寄付者一覧	80
○逝去者一覧	81
○2025年度理事会役員一覧	82
○表紙デザイン・編集後記	84

巻頭言

元気な早稲田電気工学会

早稲田電気工学会 会長 大石 進一



EWE会長として、あと少しまで務め上げてきました。学生部会の活動ではソフトボール大会に250名以上の参加者があり、ボウリング大会も200名に近い参加者があり、とても活況を呈しています。EWE主催の会合も有意義なものが多く企画されています。地方本部総会には、東北、東海、関西、九州地方本部に参加しましたが、それぞれが工夫を凝らした運営で楽しくOBの皆様との懇談が出来ました。

私は博士後期3年生で助手にさせていただいて以来、43年に渡って早稲田大学に奉職し、ほぼ3年前に退職いたしました。早稲田大学そしてその電気系は自由に研究テーマを選べ、信じた好きな学問の道に邁進することが出来ました。本当に奥が深い組織運営がなされ、まさに大隈精神が息づいていて、常に応援されていると感じました。そのような大隈精神は卒業生に広く伝播され、人類の将来を切り拓く人材が輩出され続けてきたのだと確信しております。今回のEWEの会報も素晴らしい出来栄になっているものと思います。

将来にわたって、我がEWEが益々人類の発展に寄与していくことは確かなことと思います。ともに頑張りましょう。理工・西早稲田キャンパスの改築工事も進み、52号館の建て替えが完成しました。続々新たな建て替えも進んでいます。まだ、ご覧になっていない方はぜひご覧になっていただくとよろしいと思います。今年も皆様ご健勝で益々ご発展ください。

特 集

理工学術院の教育・研究の取り組みや 理工創設125周年のキャンパス再整備

理工学術院長 戸川 望



早稲田大学の創立者大隈重信は理工系の人材育成の必要性を痛感し、明治41年（1908年）2月に、私学にとって不可能とさえ言われた理工科の新設を決めました。2033年は理工創設から125周年にあたります。設立当初から「理を以て工する」という大隈の理想に基づき、理工科あるいは理工学部という名称が使われ、その理念は今日の理工学術院にも引き継がれています。理工学術院は我が国の私立大学の理工系学部研究教育機関として最も古い歴史があり、この間、非常に多くの卒業生を輩出し、彼らは国内外において大きな活躍を見せています。今日の理工学術院は、こうした多くの卒業生の名声・業績のもとにあると言って良いでしょう。

1908年には、EWEを構成する学科の一つ電気・情報生命工学科／専攻の母体となる電気学科の予科が機械学科予科とともに開設され、1912年には電気科の卒業生21名が中心となって早稲田電気工学会（EWE）が発会することになります。早稲田大学理工系の歴史は早稲田電気系ならびにEWEの歴史でもあるのです。

早稲田理工が、現在の西早稲田キャンパス（当時は大久保キャンパスと言いました）に移転したのは1967年です。今から半世紀以上も前のことでした。移転当時の写真を見ると新宿と言っても、旧大久保キャンパス周辺はまだまだ低層の建物が多く、18階建ての51号館は目を見張るものがあったと想像します。

今、早稲田理工・西早稲田キャンパスは大きな変革期にあります。[1]にあります通り、西早稲田キャンパスでは、主に教室棟として長く利用されてきた52

号館、53号館、54号館を中心に、西早稲田キャンパス再整備工事の第一期が進んでいます。西早稲田キャンパスにおいて、特に近年の大学院生や研究者の増加と研究活動の高度化を背景に、施設の狭隘化の解消が喫緊の課題でした。そこで、西早稲田キャンパス再整備工事では教育研究環境の改善に向けた施設面積の増床を目的としています。さらに既存キャンパスに不足していた学生アメニティ機能の拡充および、教育のあり方を見据えた教室の収容人数・仕様・室数等の見直しを行っています。今回の建替え事業は、この西早稲田キャンパス再整備の第一期工事であり、その後、第二期として59号館の建替えが計画されており、世界で輝くWASEDAの理工系の研究教育施設の実現を目指します。

特に日本建築学会賞を受賞した既存の52号館を生きた教材、すなわちヘリテイジとして継承し完全に保存しながら、これを跨ぐように新52号館が建設されます。新52号館の構造は既存52号館を挟んで立つ新設コアを結ぶ最上部のハンガートラスから各階床を吊り下げる架構形式とし、既存52号館に荷重をかけないダイナミックな構造を用いて既存52号館自体をヘリテイジとして残す計画となっています。さらに53号館と54号館は新しく生まれ変わり、合わせて延床面積は約3倍に増床されます。学生にとっての重要な学部4年間、あるいは大学院を含めてそれ以上を過ごすことになるこのキャンパスを整備するにあたり、建設工事期間は10年にもなる予定です。学部生が大学院修士課程に進学したとしても、そのキャンパス生活は6年間です。そのためこのキャンパス整備にあたっては、入学して仮設校舎で学び、仮設で学生生活を過ごし卒業してしまう学生がいること、しかも数年間にわたりその状況をつくりだしてしまうことは避けるべきと考え、本来の教育空間で本当の教育を受けるべく、仮設教室なし、かつ現在建っている52号館を使いながらのローリング計画としています。

さらに加えて西早稲田キャンパス再整備工事の第二期計画も進行中です。新しいキャンパスは、建設が完了した建物から漸次、学生や教職員に利用されることになります。

ここ10年の間にキャンパスの様子は大きく変わり、早稲田理工も大きく変わります。伝統を重んじた上で、新しいものを取り入れながら、早稲田理工ならびに

EWEのこれからの100年を築いていきたいと思ひます。

[1] <https://www.waseda.jp/top/news/93550>



新52号館、新53号館、新54号館、新59号館が完成した後のイメージ図。南から西早稲田キャンパスを見た図。4階部分が東西に接続され、カフェテリアをはじめ、学生、教職員が利用できる空間になる予定です。写真は[1]より引用。



新52号館の構造（左）と新52号館の4階部分。既存52号館の屋上部分の構造物が、新52号館の4階に見えます。写真は [1] より引用。

【略歴】

- 1992. 3 早稲田大学理工学部電子通信学科卒業
 - 1997. 3 早稲田大学大学院理工学研究科電気工学専攻終了、博士（工学）
早稲田大学理工学部助手、講師、助教授・准教授等を経て、
 - 2009. 4 早稲田大学理工学術院教授（現在に至る）
 - 2018. 9 早稲田大学基幹理工学部長・大学院基幹理工学研究科長（2024. 9まで）
 - 2024. 9 早稲田大学理工学術院長（現在に至る）
- 専門は集積システム、セキュリティ、量子計算

講演

新たな制御工学の構築へ ～人とつながる制御システムを探る～

先進理工学部 電気・情報生命工学科 准教授 和佐 泰明



学位取得後の2016年4月から早稲田大学にお世話になり、今春でちょうど10年在籍となりました。現所属学科の起源から制御工学系研究室を振り返ると、帆足竹治名誉教授、示村悦二郎名誉教授、内田健康名誉教授、渡邊亮教授、そして私につながります。受け継がれてきた制御工学系研究室の重責を研究・教育両面で改めて感じています。幸運にも渡邊先生と共に歴代の先生方の研究の基礎となる講義科目を担当しています。本学ティーチングアワード賞受賞により、令和時代に適した不易な理念の伝承が教育面で実践できていると信じています。

研究面については発展的進化、すなわち不易流行が必要です。これまでの制御工学は人工物の大規模集中管理型やネットワーク型制御システムの設計論が中心でした。物理的に存在する実世界（フィジカル）と情報通信処理の世界（サイバー）を有機的に相互接続するサイバーフィジカルシステム（CPS）と捉えることができます。最近よく聞かれるフィジカルAIもCPSの最新形態です。他方、Society5.0やカーボンニュートラル社会の実現のためには、利用者である人々やAIによる多数の自律性を有する意思決定者（マルチエージェント）をCPSに組み入れた社会構造の理解・制度設計への展開が今後必要不可欠となります。

このような背景から本研究室では「人とつながる制御システム（Cyber-Physical Human Systems）の構築を目指す」ことを標語に掲げ、基礎研究を中心に進めてきました。具体的には、電力システムの制度改革、交通システムと融合した先進的まちづくり、人機械協調制御による環境モニタリング、国際環境協定など、社会の「コトづくり」に向けた電生らしい異分野融合研究テーマに取り組んでいます。利害関係の調整や合意形成については、理論解析的にも数値解

析的にも多くの課題が残されます。生成AI技術の進展により、今後はAIオーケストレーションを用いて一つの解が得られるようになるでしょう。しかし、生成AI技術で得られた結論ありきの議論では、そのシステムに組み込まれた個性ある人々が素直に合意できるとは限りません。“human meaning”を強く考えさせられます。人々が培ってきた知見を踏まえ、合意プロセスや意思決定の構造を陽に捉えることこそが、望ましい設計論だと個人的には考えています。

フィジカルAIの代表例であるロボティクス分野では、多様なツールがオープンソースとして提供されています。生成AI技術が市民権を得た現在、ツールを組み合わせたシステム構築では、干支が一周違う学生の方が極めて効率的である場面も増えてきており、若手教員である私でさえ研究スタイルを容れ続けている状況です。システムのアナロジー（類似性）に着目する制御工学の温故知新の視点から、オープンソース化された分野の技術をEWEの守備範囲である研究分野に取り入れる展開を進めていますが、同時に“physical meaning”の言葉の重みを強く感じているところです。

最後に、現在30名程度の学生と共に研究しています。特に、修士1年の伊藤潤成が科学技術振興機構（JST）戦略的創造研究推進事業 ACT-Xに最年少で採択される快挙がありました。学生への尊敬と感謝の気持ちを忘れず、研究教育活動を通して早稲田大学に貢献できるよう精進いたします。



2025年5月 和佐泰明研究室同窓会

【略歴】

2016年東京工業大学大学院理工学研究科機械制御システム専攻博士後期課程修了。2014年日本学術振興会特別研究員DC1。博士取得後、早稲田大学にて次席研究員、講師を経て、2024年より同大学理工学術院電気・情報生命工学科准教授、現在に至る。博士（工学）。計測自動制御学会（SICE）制御部門 自律型Cyber-Physical Human Systems調査研究会（2026-2027）主査。

【受賞歴】

SICE論文賞（2015、2023、2025年）、Asian Control Conference Best Paper Award Finalist（2019、2022）、2020年度船井情報科学振興財団船井研究奨励賞、早稲田大学ティーチングアワード（2023、2024年度）、第10回WASEDA e-Teaching Award（2022年）、2024 Outstanding Associate Editor Award of Asian Journal of Control等受賞。早稲田大学PI飛躍プログラム2026年度支援対象者として選出。

【本研究プレスリリース】

2024年7月16日 <https://www.waseda.jp/inst/research/news/78042>

2020年5月25日 <https://www.waseda.jp/top/news/69247>

受章**「瑞宝中綬章」受章記念特別寄稿****科学技術史の側面に立ち会えたこと**

松山泰男先生は、令和7年度秋の叙勲で、瑞宝中綬章を受けられました。早稲田電気工学会にとって大きな喜びであり、松山先生に心からお祝いを申し上げます。松山様から研究内容等寄稿していただきました。

早稲田大学名誉教授 松山 泰男



EWE会長であった2020年の会報第61号に「起点、特異点、適者生存」を寄稿し、その中で会報第1号の名簿には大隈重信侯ご自身が電気工学科教職員として記載されていることを述べておきました。これは再発見なのですが、大事な事実はともすれば失われがちです。そこで、この寄稿では、科学技術史の一側面として経験し、残るべき価値のあることを、このたびの叙勲に後押しされて述べておきま

す。

小学校低学年のころ、長州マインドの母親が、なぜか家で紺碧の空の一節を口ずさんでいました。これが強く刷り込まれていたようで、本学に進んでEWE会員となり、1974年3月に高木純一、秋月影雄、白井克彦の三先生の指導の下、神経パルス列の確率的密度変調のモデル化により、電気工学専攻の博士号を得ることができました。

当時の世代には、国外に出てみようという機運がみなぎっていました。私も日本学術振興会(学振)とフルブライト委員会の共同プログラムに応募していましたが学振に火事があり、可否連絡はととも遅れて来ました。そんなわけで、派遣先がスタンフォード大学に決まったのは3月末でした。このことを長老教授にお伝えしたところ、「その場所は実際にはどこかね」と聞かれ、「よく分かりませんが、サンフランシスコの近くのようです」と怪しい返答をしたことを記憶しています。実は、当時すでに同大学のFrederick Terman教授により、今日のシリコンバレーの主要部が形成されていました。

スタンフォード大学では電気工学系情報システム研究所のRobert Gray先生の研究室に所属し、奨学金切り替えの1977年からは同研究所の助手になりました。学振のプログラムは博士号を目指すものだったので、その取得資格への試験を受けました。審査委員リストにはトランジスタの発明者であるWilliam Shockley Jr.教授がいました。彼は特定の人種への偏見で知られており、経験が浅かった私はおせっかいな米国人学生の助言をうのみにしてしまい、Shockleyによる直接の諮問を避けてしまいました。後で分かったことですが、彼特有の優生学的偏見はアジア人に対してではありませんでした。

Ph.D.取得への研究テーマは、確率過程間の距離とその応用でした。これは情報理論における高能率情報圧縮に関連し、ベクトル量子化につながって博士号の取得を終えることができました。

ベクトル量子化は、今日でいう競合学習アルゴリズムに相当します。従って、上位構造を導出できます。筆者は、確率間の距離理論に基づいて、EMアルゴリズムのさらに上の α -EMアルゴリズム (alpha-expectation-maximization) が最上位構造であることを導き出しました。これは、確率密度間のアルファダイバージェンスに基づいています。この論文の最初の投稿は、査読者による全くの理論的誤認により却下されてしまいました。次節では、人類の存亡にかかわるレベルでの誤った論文却下の例を挙げます。

バイオインフォマティクスの主要なツールであるBLAST (Basic Local Alignment Search Tool) は、DNAの塩基配列やタンパク質のアミノ酸配列どうしの類似性を見出して表示することを行います。新型コロナウイルスとコウモリの遺伝子との比較に活躍したはずですが、その基本部分にSmith-Waterman アルゴリズムという類似度検索方法があります。Michael Waterman教授がこのアイデアを最初に投稿した際、査読者は「生命情報をこのように数値的に扱う提案は学術的に無価値である」と言って却下してきたと、2006年の国際会議の受賞講演でその通知を開示していました。この局所アラインメントには上位構造を導出することができて、われわれは類似動画像検索に適用しました。

ここで時間を戻して、公開鍵暗号、ブロックチェーン、暗号資産を話題としましょう。1975年のスタンフォード学内新聞に「本学は、政府による暗号研究中止の命令に対して勝利」とありました。この研究の中心人物が、公開鍵暗号で名高

いMartin Hellman教授で、私もいくつかの講義を受けました。同教授の研究パートナーがWhitfield Diffieで、Tシャツが最も似合うはずのカリフォルニアの陽光の下、ジャケットにネクタイ、それなのに裸足で、甲高い声で何かをつぶやいているという、かなり特異な姿でした。公開鍵暗号には、MITのRonald RivestらによるRSA暗号があります。彼は、Diffie-Hellmanとは同じキャンパスにある計算機科学科の出身で、ほぼ同時期ということもあり、何かの因縁を感じます。追加として、Hellman教授のグループで当時助手だったRalph Merkleについて述べておきます。彼は、公開鍵暗号理論の芽生えをDiffie-Hellmanと同時期に有していて、私とは同じ助手部屋でした。公開鍵暗号はその後のブロックチェーンと暗号資産の中核部分となりましたが、その使用方法として重要なMerkle木は、彼の発明によるものです。その後、彼は脳の冷凍保存を起業していて、天才肌を感じさせます。

次にニューラルネットワークの学習アルゴリズムに関する件を挙げておきます。その基本となる誤差逆伝播法 (BP, Error Backpropagation) はDavid Rumelhartらによって命名・発表されました。彼が悲劇的な病の初期に私に会ってくれたことは会報第61号に述べておきました。彼はGeoffrey Hintonのいわば兄貴分に当たり、科学技術史においてもっと光を当てられるべき存在です。BPはAshish Vaswaniらによるトランスフォーマの中核をなし、対数尤度に基づく学習により条件付確率を推定する生成AIにおいて不可欠となっています。これに対して筆者は、 α 情報量行列とCramér-Rao限界に裏付けされた α -BPを創出しました。これは、現行のBPを遥かに凌ぐ高速性を発揮し、生成AI学習におけるエネルギー消費の削減につながります。

最後に、高校や学部で習った地動説のNicolaus Copernicus、そしてラプラス変換のPierre-Simon Laplaceなど数多くの著名人が、科学技術における師匠の系統樹 (supervisor genealogy) において、実はわれわれと直接につながっている存在であることを指摘しておきます。このことについては、紙面の都合上、別の機会に譲ります。

退任に際して

量子材料学とともに

先進理工学部 電気・情報生命工学科 教授 武田 京三郎



1995年（平成7年）、縁あって早稲田大学理工学部に奉職することとなりました。初めて大久保キャンパス（当時は西早稲田キャンパスと言う名称はありません）の地に踏み入れた時は感無量でした。この1995年は阪神大震災が正月成人の日明けに起き、またオウム真理教の事件もあり、世の中が落ち着きの無い騒々しい時でもありました。同期に奉職された先生は、同じ材料工学科に齋藤良行先生（早稲田大学名誉教授）、また電子通信工学科に宇高勝之先生（早稲田大学名誉教授）がいらっしゃいました。

教学事項は学部2年及び3年生に対する『量子論』と『電子論』、大学院生に対する『量子材料学特論』、これらの講義に加え理工学部1年生への基礎実験と学科3年生に対する専門実験がありました。研究に関しては、着任時から三つの主題を考えておりました。一つは電子論に立脚した計算物質探索である『量子材料学分野』、生体／生命機構を電子の振る舞いから理解する『量子生物学分野』、そして量子論を物質に適用し先鋭化させる『量子理論分野』です。これらを総括して『量子材料学研究室』と名付け、研究室を立ち上げました。この三分野の研究に加え、行動指針として『挑戦と創造』を自らに課しました。定年までにどれ程成し遂げられるか不安もありましたが、学生諸君と研究室を築いていく昂揚感が勝っていたと記憶しております。

量子材料学分野は前職（NTT基礎研）以来続けてきたテーマです。その発展系として対象を高分子やクラスター（量子構造）へ広げました。加えて対象物質群を分子軌道法が適用できる有限系とバンド計算に落とし込める無限系とに大別し、構成単位から周期構造までの一連の電子構造を両理論の組み合わせで明らかにしました。この研究分野は研究室での一つの流れとなり、代々後輩諸君に引き継がれました。例えばグラフェン中の電子余剰・欠損不純物元素の振る舞いやその二次元系（グラフェン、シリセン）への一般化、さらに同IV族元素群を骨格とするナノ構造（ナノリボン、ナノリング、ナノチューブ）の電子状態とスピン多重度の包括的検討です。

量子生物学分野ではpeptide nanotube (PNT) に着目し、構成要素peptide nanoring (PNR) まで分割し、アミノ酸置換基による電子論的特性を抽出しました。環状PNR構造は同一掌性のアミノ酸連鎖からしか形成されないと言う従来



武田研究室

の裏付けのない“常識”を、学生諸君らが数理的に緻密にかつ厳格に検討し、アミノ酸5連鎖ならば環状と成り得る事を理論的に見出した事は思い出深いです。さらに実験により初めて当該5員環PNRが積層されたPNTの合成に成功したばかりか、AFM観測によりPNR積層中心軸歪みによるチューブ湾曲率まで言及出来ました。これ

らの研究はさらに後輩諸君に引き継がれました。反結合（励起）状態での結合距離の伸長に着目し、光励起におけるPNRのイオン捕捉能可変について、配置間相互作用を考慮した研究を行った事も思い起こせます。これによりPNRは金属イオンばかりか両イオン性補足能を有する事を見出しました。さらに動力学へも裾野を広げ、PNRの構造変形に関する分子動力学の研究は南カリフォルニア大学との共同研究に発展し、PNT内のイオン伝導の動力学に深化しました。

量子閉じ込め場構造での量子効果の理論解明が三番目の分野です。Hamiltonianの実時間・実空間差分法に取り組み、時間依存Schrödinger方程式の数値厳密対角化法を完成させ、荷電担体の動力学研究に取り組みました。波動関数の対称性を人為的に崩壊させ、その干渉効果が電荷密度の自発的回転運動に転化させる事に加え、干渉による自発分極の制御可能性を理論的に見出しました。近年は、量子閉じ込め場内でのスピン・軌道相互作用を研究対象としています。特に半導体正孔に着目し、サブバンド間に基づく非断熱過程が起因する新奇トポロジーの抽出を試みています。

何もない60号館211室で量子材料学研究室をどう差配すればと悩んでいた時から30年余が経ちました。その間、研究室に配属された学生諸君は懸命にまた献身的に私を支えてくれました。初めて早稲田の地に立った時の決意である『三分野』の研究と『挑戦と創造』の行動指針。何れも果たせぬ夢でしたし、新規で目覚ましい研究課題を学生諸君に提示する事は出来ませんでした。それでも、学生諸君と過ごせた日々が心に刻まれております。学生諸君と共に勉強し、また議論できた事は何よりも得難い私の宝です。もし量子材料学研究室の目的が少しでも、そしてほんの一部でも出来たとするならば、それはすべて学生諸君の努力の賜に依ります。

これまで幾多の御指導を頂いた教職員の皆様に心より感謝申し上げますとともに、早稲田大学、理工学術院そして早稲田電気工学会（EWE）の益々のご発展をお祈り申し上げます。

【略歴】

昭和30年10月26日 東京都生まれ

昭和58年3月 慶應義塾大学大学院工学研究科博士課程修了（工学博士）

昭和58年4月 日本電信電話公社入社 NTT 基礎研究所主任研究員を経て

平成7年4月 早稲田大学理工学部助教授

平成9年4月 早稲田大学理工学部教授、現在に至る

EWEニュース

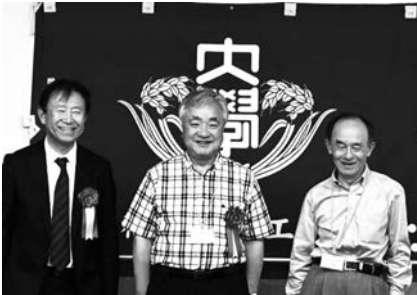
2025年度も様々な会議やイベントに取り組みました。

5月29日 定時評議員会・通常総会・講演会・懇親会（総会50名参加）

定時評議員会・通常総会において、菊池会長が議長となり、すべて議案は承認されました。

講演テーマ 「理工学術院の教育・研究の取組みや理工創設125周年の
キャンパス再整備等」

講師 理工学術院長 戸川 望（情報通信学科教授）



菊池顧問

大石会長

大木会長代理



戸川 望先生

6月22日 海外大学院留学説明会（活性化委員会）

対面 説明者4名、参加学生 20名

6月24日 第4回EWEボウリング大会（昨年を上回る学生25チーム/105名参加）

会場 高田馬場グランドボウル

★優勝は鷺崎・鶴林研究室【をのゆい】チーム、準優勝は前原研究室

【カレーライス】チーム、3位は森田研究室【森田研】チーム

★ベストスコア賞は190、201点、アベレージ195点の鷺崎・鶴林研究室 土田君



9月29日 研究室対抗EWEソフトボール大会

会場：戸田市彩湖・道満グリーンパーク

4学科20研究室、学生18チーム参加（約260名参加）



10月17日 EWE塾 「技術者のための特許」 会員/学生：40名参加

講師 井上 正則 氏 (iPARTNERS特許事務所代表)

11月14日 EWE先輩と学生との交流会（活性化委員会）

27企業 2官庁参加、 学生：120名参加、 先輩：80名参加



11月28日 地方本部長/評議員合同会議・講演会等

講演テーマ「新たな制御工学の構築へ～人とつながる制御システムを
探る～」

講師 和佐 泰明 先生（電気・情報生命工学科 准教授）

学生部会報告

ソフトボール大会報告

学生部会 委員長 野村 涼太



2025年9月29日にソフトボール大会を開催いたしました。前年度に好評であった大会公式LINEを引き続き活用することで、参加者への連絡を迅速かつ円滑に行うことができました。また、前年度の反省を踏まえ、大会参加者の要件を明確にするとともに、試合中の安全面への声掛けを行い、より多くの方に安心して楽しんでいただける大会運営を目指しました。さらに、各研究室へのポスター配布などの広報活動を行った結果、当日は合計18チームにご参加いただきました。

大会前日には雨天が予想されましたが、当日は天候にも恵まれ、予定通り試合を行うことができました。白熱した試合から和気あいあいとした試合まで、さまざまな試合が行われ、参加者それぞれに楽しんでいただけた様子がかがえました。本年度は大きなけがをされる方もなく、無事に大会を終えることができました。本大会を通して、参加チーム内だけ



ソフトボール大会優勝チーム 若オリオールズ

優勝 チーム名	研究室	準優勝 チーム名	研究室	3位 チーム名	研究室
若オリオールズ	若尾研	ハヤシライス	林研	物性研	山本・平田・ 乗松研

でなく、他研究室・他学科のチームとの交流も深まり、親睦を深める良い機会となったと感じています。

また、学生部会の皆様には、選手として、また運営としても大会を支えていただき、円滑な大会運営および大会の盛り上げに大にご協力いただきました。

最後になりましたが、EWE事務局の方々の多大なるご支援により、本大会を無事に執り行うことができました。心より御礼申し上げます。



学生部会・事務局メンバー

【2025年度 学生部会】

学 科	研究室	氏 名
電気・情報生命工学科	近藤研究室	加藤 大貴
	近藤研究室	村島 健心
	近藤研究室	林 祐里
情報理工学科	鷺崎・鵜林研究室	西尾 光平
情報通信学科	小林研究室	安富 堅
	亀山研究室	町田祐理香
電子物理システム学科	甲藤研究室	杉本 遼太
	森田研究室	原 英祐
	谷井研究室	野村 涼太 (委員長)
	谷井研究室	太田 智基 (副委員長)
	谷井研究室	小林 由佳
	渡邊研究室	小島 公人
	渡邊研究室	岩坪 美月
	渡邊研究室	石井 開
	小西研究室	新井 大悟

新任教員挨拶

先進理工学部 電気・情報生命工学科
准教授 喜久里 浩之



2025年4月付で電気・情報生命工学科に着任いたしました、喜久里浩之（きくさと ひろし）です。1990年に神奈川県座間市で生まれ、2006年に早稲田実業学校高等部へ入学しました。以来、学部から修士・博士課程までの計12年間を早稲田で過ごしました。本会との接点としては、学生時代にEWE主催のソフトボール大会に参加し、研究室の仲間と優勝を目指した楽しい思い出がございます。

2018年に博士号を取得した後は、国立研究開発法人産業技術総合研究所（産総研）に入所し、福島県郡山市にある福島再生可能エネルギー研究所（FREIA）にて7年間勤務しました。電力の安定供給と再生可能エネルギー（再エネ）の普及を両立するための研究開発に従事し、2025年に母校へ着任いたしました。

研究については、一貫して電力系統を対象としています。現在、世界規模で再エネへの移行が急速に進行しています。2050年までのカーボンニュートラルやエネルギー安全保障の強化が求められる情勢において、再エネの普及は環境、経済、安全保障に直結します。こうした背景から、電力・エネルギーの脱炭素化と安定供給を両立することを大目的に研究開発に取り組んできました。

これまでの研究では、火力発電所が担ってきた電力系統の安定化機能をインバータ電源で代替するための技術開発に注力いたしました。リアルタイムシミュレータを用いたHardware-in-the-loop simulation（HILS）技術により、実験室内に各国の電力系統を再現可能とする試験環境を構築し、メーカーと共同で開発した次世代インバータ電源の評価を実施してきました。また、国家プロジェクトや東日本大震災の被災地企業の技術支援、国際標準化活動を通じ、社会実装を見据えた活動にも広く携わってまいりました。

今後の展望としては、電力ネットワークを核に水素・熱・データなどの大規模

エネルギーネットワークを相補的に統合する「シン・エネルギーネットワーク」の構築を目指しています。水素サプライチェーン、地熱・未利用熱の活用、データセンターのワークロードシフトなど、各ネットワークの特性を融合し、強靱なエネルギーインフラの設計を目指します。資源制約のある我が国だからこそ構築し得るこの高効率なモデルは、将来的にエネルギー転換を迫られる諸外国にとっても有効な先行事例となり得ます。この日本発の知見を世界へ提示していくことを、一つの指針としています。

こうした新たな研究領域を推進するためには、次代を担う人材の育成も必要不可欠です。教育においては、産総研での経験や本会のネットワークを活用し、最先端の研究設備の利用や、第一線で活躍する国内外の専門家との交流機会を学生に提供することで、学生の好奇心が喚起される環境を整えたいと考えています。社会人として職務にあたる中、日本の電力・エネルギー業界が本会の諸先輩方の実績に支えられている実態を目の当たりにしました。共同プロジェクトなどで先輩方と連携させていただいた際、共通の背景を持つ同窓としての連帯感は、業務遂行上の大きな支えとなりました。こうした伝統を継承し、国際的な視座を持って社会に貢献できる専門家を育成することも、早稲田大学の教員としての役割であると考えています。

今後も試行錯誤を続けながら取り組む所存です。何卒、ご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

喜久里 研究室のURL：<https://kikusato.w.waseda.jp/>

国際理工学センター CSCE Major

教授 鷓林 尚靖



2024年4月に国際理工学センター CSCE Major に着任した鷓林尚靖と申します。情報理工学科と情報通信学科の英語学位プログラムを担当しています。それまでは九州大学システム情報科学研究院に在籍しておりました。九大を早期退職し（定年扱い）、縁があって早稲田大学に移ってきました。九大では副研究院長（工学部I群長、電気情報工学科長を兼務）として、大学院と学部の入試や教育を担当していました。早稲田大学では一教員に戻り、授業と学生への研究指導が主な仕事になっています。

私の専門はソフトウェア工学です。ソフトウェア工学とは、分析、設計、プログラミングなどソフトウェアを開発するための手法を研究する学問分野です。直近の10年間において、ソフトウェア工学研究の最先端で大きく進展したのは、プログラムのバグを自動修正する技術や、仕様からプログラムコードを自動生成する技術です。これらはソフトウェア工学における長年の夢でしたが、オープンかつ大量のソフトウェア開発データと機械学習、自然言語処理、生成AIが結びつき、大きな技術進展が見られました。私は、現在、人工知能とソフトウェア工学を融合した研究を行なっています。

私は広島大学理学部数学科を卒業後、東芝に入社しました。そこで、初めて現在の専門であるソフトウェア工学に出会いました。会社では、工場や研究所でエンジニアとして働きました。東芝に入って最初に配属された部署の業務がソフトウェア工学に関するものでした。ですので、ソフトウェア工学をやりたいという気持ちがあって、この分野に進んだわけではありません。そもそも、当時はソフトウェア工学という学問自体が存在することすら知りませんでした。しかし、数学よりは情報の方が私の性に合っていたようで、結果としてソフトウェア工学がその後の私の専門となりました。ちなみに私の最初の直属上司（課長）は早稲田

大学理工学部数学科のご出身でした。私が早稲田大学の教員となったのも何かの縁なのかもしれません。

30歳代の時に機会があって、東京大学大学院総合文化研究科に社会人入学し、そこで博士号を取得しました。総合文化研究科という名前はあまりご存知ではないかもしれませんが、駒場にある教養学部大学院です。当時、ソフトウェア工学の権威である玉井哲雄教授がおられて、そこで勉強をしました。その後、大学で研究をしたいという気持ちが強くなり、東芝を退職し、大学の先生になりました。大学教員になって一番魅力的なことは、自分がやりたいことを研究テーマにできることです。好きなことを好きなだけ研究できます。学生と一緒に研究を進められるのも魅力的です。また、学会等を通じて、国内外の研究者と損得勘定なしで交流ができるのは本当に素晴らしいことです。

ソフトウェア工学は開発者やユーザなど人間を対象とした工学です。工学なので技術的な要素は当然のことながら重要なのですが、人間的な部分も忘れてはいけません。そのためには人文社会科学的なものを見方を大切にする必要があります。これは、ソフトウェアに限らず、人間を対象とした工学すべてに言えることだと思います。

【学歴】

1982年 広島大学 理学部 数学科卒業
 1996年 筑波大学大学院 経営・政策科学研究科 経営システム科学専攻 修士課程修了
 1999年 東京大学大学院 総合文化研究科 広域科学専攻広域システム科学系 博士課程修了
 博士（学術）

【職歴】

1982年 東京芝浦電気（株）（現在の東芝）入社
 2003年 東芝退職（最終職位：ソフトウェア技術センター（現在の総合研究所デジタルイノベーション技術センター）参事）
 2003年 九州工業大学 情報工学部知能情報工学科 助教授（准教授）
 2010年 九州大学大学院 システム情報科学研究院 教授
 2021年 九州大学大学院 システム情報科学研究院 副研究院長

基幹理工学部 電子物理システム学科
専任講師 川村 一志



2025年4月付で基幹理工学部電子物理システム学科に着任いたしました川村一志と申します。私は理工学部が3学部
に再編された2007年に早稲田大学へ入学し、情報理工学
専攻にて博士（工学）の学位を取得いたしました。卒業後
は、博士研究員・任期付き教員として2020年3月まで早稲
田に在籍した後、東京工業大学（現・東京科学大学）に移
り、現在の研究の礎を築いてまいりました。それから5年、
縁あって母校の早稲田大学に戻ることとなりました。思
い入れ深いこの場所で再び研究・教育に携われることを大変嬉しく思っており
ます。

今回の着任にあたり、私は初めて独立研究室を立ち上げる運びとなりました。
川村研究室では、機械学習や組合せ最適化を基軸とした知能処理システムを主な
研究対象としています。機械学習は、コンピュータが膨大なデータから潜在的な
規則性を学習し、未知のデータに対して推論を行う技術です。一方、組合せ最適
化は、数多く存在する選択肢の中から目的に応じて最適な解を効率的に見つけ出
す技術です。これらは現在の高度情報化社会を支える基盤技術として、さまざま
な分野で活用が進められています。近年の急速な技術発展は、アルゴリズムの高
度化に加え、それを支える計算機の進化が相互に作用することで実現されてきま
した。これらの技術を真に活かすためには、アプリケーションの要求を正確に捉
え、アルゴリズムを洗練させ、それを効率的に実行する計算機アーキテクチャを
設計することが求められます。

本研究室では、私自身のこれまでの研究経験を活かし、アルゴリズムの理論的
検討から計算機上での実装、さらには社会課題への応用までを横断的に捉えて研
究を進めていきます。また、学生一人ひとりが安心して研究に取り組み、主体的
に研究を進められるよう、対話を重視した研究指導を心がけていきます。早稲田

大学の優秀で個性的な学生とともに、今後の技術発展に貢献し、世界トップレベルの研究を発信できる研究室を築いていきたいと考えています。

電子物理システム学科は、比較的小規模でありながら、基礎物性・エレクトロニクス・フォトンクス・情報システムの4分野が交わる多彩なカリキュラムを特徴とする学科です。一見関連が薄いように見える分野であっても、互いに応用できる技術や考え方があり、思いがけないインタラクションが生まれる点に本学科独自の魅力を感じています。例えば、統計力学の講義で扱うイジングモデルは、本来は磁石の性質を説明するために導入されるものですが、組合せ最適化問題をユニバーサルに表現する枠組みとしても活用することができます。電子物理システム学科の教員として、学科の特色を最大限活かした研究・教育に取り組み、私が持つ情報システム分野の知識や経験を学科の学生に還元できるよう努めてまいります。何卒ご指導・ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

【学歴】

2012年 早稲田大学 基幹理工学部 情報理工学科卒業
2013年 早稲田大学大学院 基幹理工学研究科 情報理工学専攻 修士課程修了
2016年 同上 博士（工学）

【職歴】

2015年 日本学術振興会 特別研究員（DC2）
2016年 日本学術振興会 特別研究員（PD）
2017年 早稲田大学 理工学術院 総合研究所 次席研究員
2018年 早稲田大学 理工学術院 講師（任期付）
2020年 東京工業大学 科学技術創成研究院 特任助教
2025年 早稲田大学 理工学術院 専任講師

研究室の紹介

高松敦子 研究室紹介

先進理工学研究科 電気・情報生命専攻 修士2年 宮本 康平



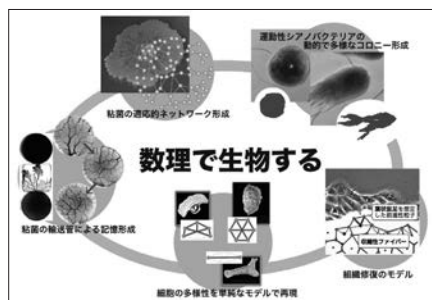
○研究室の概要

高松研究室（生命システム研究室）は「数理で生物する」をテーマとした研究室です。

当研究室では、生物の定量的な観察と数理モデル化の2面から生命現象の仕組みを調べています。生物や細胞の振る舞いを撮影した画像データから定量的に分析し、その結果から予想される生命システムのメカニズムを数理モデルに落とし込みます。そして、数理モデルを使用したシミュレーションや解析から導かれる仮説を再び観察実験によって確かめるというサイクルを回すことで研究を進めています。

高松研究室には粘菌班、細胞班、シアノバクテリア班の3班が存在し、それぞれ別のモデル生物を扱った研究を行っています。

高松研究室には粘菌班、細胞班、シアノバクテリア班の3班が存在し、それぞれ別のモデル生物を扱った研究を行っています。



○研究事例

1. 粘菌班：脳を持たない生物の記憶に関する研究

生物の知能や記憶は脳や神経回路などの複雑なシステムのもとに成立すると考えられています。一方で、粘菌は餌を効率的に運搬する輸送ネットワークを形成したり、周期的な外部刺激に対して次の刺激を予測したような応答を見せるなど、脳や神経系を一切持たない単細胞生物であるにも関わらず、あたかも知能や記憶が存在するような振る舞いをします。高松研では、このような粘菌の振る舞いについて数理生物学の視点から捉え、観察実験と数理モデルを組み合わせたアプローチによって、神経系に依存しない生物の原始的な記憶のメカニズムとその起源に迫る研究を行っています。

2. 細胞班：細胞の運動と形態変化のメカニズムに関する研究

細胞の性質は生物種や細胞種によって異なりますが、MDCK細胞の観察により、単一細胞の振る舞いは遺伝的要素によってのみ決まるわけではないことが明らかになりました。そこで、当研究室では細胞に見られる多様な運動形態を同一パラメータ下で表現できる数理モデル（粒子-ファイバーモデル）を提案し、遺伝情報だけでは決まらない細胞の多様な運動のメカニズムについて調べています。現在は観察と粒子-ファイバーモデルの拡張によって、細胞の運動と基質の接着性の関係や、生物に非対称性が生まれるメカニズム、細胞組織の傷の治癒過程などについて明らかにすることを目指しています。

3. シアノバクテリア班：生物の集団としての振る舞いの研究

野生環境で多くの生物は群れを形成しますが、そこにはある種の秩序が存在します。シアノバクテリアのような単純な生物も、環境に応じて動的に異なる秩序を持った集団を形成することが知られています。この班では、シアノバクテリアをモデル生物として、生物が形成する群れの秩序の根本的な原理について研究しています。

○研究生活

高松研究室では毎週の全体ゼミと隔週の班別ミーティングの時間を設けています。ここでは学生が持ち回りで自身の研究の進捗や新しいアイデアを共有し、研究室全体で課題の解決方法や研究活動の方針を議論します。その他に、学部4年生には研究の前段階として、先行研究を読み込んでプレゼンするジャーナルクラブを設けているほか、卒修論の審査会に向けた発表練習会など、一年を通して発表をする機会が多くあります。コアタイムは設けていませんが、各学生にデスクが割り当てられており、集中して研究活動に取り組める環境が整っています。その他にも、大学のセミナーハウスを利用した夏合宿や、EWE主催のソフトボール大会、ボウリング大会などのイベントもあります。

○今後の抱負

上述した活動内容に加えて、電気・情報生命専攻の他分野の研究室の学生に向けて発表をする機会も多くあり、知識のベースが異なる聴衆を想定した発表の経験を積むことができました。卒業後は民間の企業に就職しますが、研究活動を通して培ったデータを正しく評価する力やプレゼン力を活かし、さらには伸ばしていけるように挑戦していこうと思います。

嶋本薫 研究室紹介

基幹理工学部 情報通信学科 学部4年 田辺 優貴子



○研究室の概要

嶋本研究室では6Gグループ（6Gシステム、V2X、ワイヤレスネットワーク方式等）、WAグループ（ワイヤレスアクセス方式、通信方式、人体、ストレス／依存症等）、RFグループ（無線システム、衛星、UAV、伝搬等）に分かれており、ワイヤレスアクセスを中心とした基礎から応用までの多角的な研究を行っています。また実験設備として電波暗室やロボット、ドローンや屋外大型アンテナが設置され研究に活用しております。毎週金曜日のゼミでは学生の研究進捗をグループごとに報告し、教授や学生同士での議論を通し研究を進めています。またインドや中国、ハンガリー等各国からの留学生が多数在籍し全体セミナー等、国際的な環境で発表、議論する場を設けています。IEEE等国际学会での発表やASPIREのプログラムによる海外留学に参加し広い視野と国際交流を通じた研究活動を行っています。研究室の行事として新入生のウェルカムパーティーや夏合宿、クリスマスパーティーを開催し所属グループを超えたメンバーとの交流が盛んで充実した研究活動を過ごしています。

○研究内容

人体通信から宇宙通信まで幅広く研究を行います。物理層からアプリケーション層まで方式の基礎的な研究から具体的な応用システムまで提案、研究を行っています。以下にテーマ例として5つ紹介します。

1. 光を用いた非接触血糖値取得

血糖値は様々な疾患の予防、治療に重要なデータですが、現状採血による検出が主流です。光通信を用い相関を学習させることで非接触型かつ精度の高さの両立を目指した血糖値測定手法を提案します。

2. 宇宙エレベータ通信

宇宙への輸送能力の向上及び人類の資源問題の解決の為、地球から宇宙へ向けて伸びるエレベータ通信の実現を目指します。赤道以上以外で建設した場合の宇宙エレベータの軌道や大気圏内に通信基地局を設置した際のBER特性等space line networkの提案を行います。

3. V2Xにおける通信ネットワーク

交差点における低遅延、高信頼、自立分散型自動／アシスト運転制御による信号機フリー交差点の実現を目指します。提案方式としてFAWAC (Fixed Assignment based Window Access with Capture) が挙げられWindow内外

での割り当てスロットまでの待機時間や電力強度を調整する手法提案を行います。

4. ロボット内有線通信の完全無線化

ロボットの完全無線化により重量の軽量化、配線確保、断線、固定的な構成の解決を目指します。制御信号やセンサー信号を全て無線化し配線フリーとする非接触コネクタと電力伝送を用います。多数に近接センサー間での低遅延、高信頼通信の確立の目標値に向けmassive channel access、高信頼NOMA、ミリ波OOK信号等を活用しアクセス制御やインターフェイス、回路の簡素化低遅延化を図ります。

5. 電離層反射を用いた長距離無中継通信システム（自身の研究）

短波通信では時間、太陽の状態で変化する電離層を反射することで遠距離通信が可能であり通信可否が電子密度に依存する特徴を持っています。電子密度が不十分である際には電波の屈折は発生しますが全反射が起きず宇宙空間へ進み地表方向へ伝搬することが出来なくなります。アマチュア無線（FT8）では日時、SNR、メッセージ内容と共にグリッドロケータが含まれるため送受信局、観測局の位置を正確に把握できます。交信記録、Global TEC等のデータを用い通信不可領域（デッドゾーン）の推定と可視化を行いました。今後の目標としてホップ数を考慮し通信の観点から見た電離層のリアルタイム推定の実現を目標としています。

その他OAM（Orbital Angular Momentum）に関する研究や光無線信号空間合成による物理層での高セキュリティ通信、カーボンナノチューブ塗布型RFID用通信方式による冷蔵庫システムへの応用や携帯基地局からの信号反射によるセンシングを用いた物体認識、微生物燃料電池を用いたIoTセンシング等様々なテーマでワイヤレス通信を用いた研究活動が行われています。

○今後の抱負

私は今年4月より嶋本研究室に所属し、テーマ決めから始まり非常に充実した研究活動を行いました。研究成果をGNWやGITWでの英語でのポスター、スライド発表を行う経験を経て、自身の研究目標や意義を確認しながら研究活動を進めることの出来た年でした。ゼミや全体セミナーでの議論を通し多角的な視点を持ちながら今後も精進したいと思います。



夏合宿（軽井沢セミナーハウス）



クリスマスパーティー

乗松航 研究室紹介

基幹理工学研究科 材料科学専攻 修士2年 にしな 仁科 たくと 匠人



○研究室の概要

乗松研究室では、低次元材料の結晶成長や構造制御、および電子状態・物性の解明に日々取り組んでいます。主な研究対象は、2次元材料であるグラフェンおよび遷移金属ダイカルコゲナイド (TMDC)、1次元材料であるカーボンナノチューブ (CNT) です。配属後はこれらに関する研究テーマを個々に進めることになります。本研究室において明確なグループ分けはありませんが、共通の実験装置を使用する先輩の指導を受けて研究することが多いです。

○研究内容

先述の通り、乗松研究室では複数の材料を取り扱っていますが、各研究テーマにおける実験の流れは概ね一致しています。最初に研究対象である材料を作製し、続いて原子配列および電子状態を明らかにし、測定されたデータを元に再度条件を変えて材料を作製し、最終的には新現象・新機能を模索していくことになります。

新現象の模索の例としては、水素インターカレーション法やポリマー支援SiC分解グラフェン成長法などのメカニズムが不明瞭なグラフェン作製手法について、実際には何が生じているかの解明を目的とした研究が挙げられます。新機能の模索の例としては、ディラック半金属という超伝導体の一種にグラフェンを被覆させることで、その超伝導転移温度が上昇することを発見した研究が挙げられます。

乗松研究室の最大の特徴として、透過型電子顕微鏡 (TEM) 観察ができるようになることが挙げられます。TEMは試料の原子スケールでの観察が可能な測

定手法であり、TEMの測定手法を観察用試料作製の段階から学び、測定原理から理解して解析を進められることは、乗松研究室が世界と渡り合う研究を進められる一つの要因と言えるでしょう。

○研究生活

乗松研究室では、週一の輪講およびセミナー、隔週のミーティングを開催しています。輪講は、英語教科書を翻訳しながら回し読むことで、英語のリーディング能力を培うと共に、研究に関する基礎的な知識を身に付けます。セミナーは主に、学術論文を読み込んで内容を発表する文献紹介、および外部発表を想定して研究の進捗を報告する研究報告の2つを行います。このセミナーに向けた準備を通して、研究テーマに関連する知識だけでなく、スライド作成技術を身に付けることが出来ます。ミーティングでは、前回のミーティングから行った実験の全データを開示して研究室内で議論することで、今後の実験の指針を立てていきます。これらの定期的に開かれるゼミと、10:00～17:00の間のコアタイムによって、コンスタントに研究を進められることが、乗松研究室の大きな特色であると言えます。

○今後の抱負

乗松研究室での研究生活において最も糧になっていることは、自分では一生到達できない熱量・効率・洞察・知識を伴った研究者を直接目に焼き付けられたことでしょう。その研究者に憧れながら、自分ができる範囲で地道に研究を進めた3年は、何事にも代えられない経験だったと思います。目標は高くも、自分のペースで挑戦を続ける姿勢を忘れず、来年度からの社会人生活を乗り越えていきたいです。



乗松研究室集合写真

地方本部だより

EWE九州地方本部の活動について

○2024年度の活動について

・九州地方本部総会の開催

2025年3月に、昨年に続いて無事に開催される運びとなりました。今後とも毎年開催により九州地方本部を盛り上げてまいりたいと思います。

今年度は今回の参加人数は来賓の菊池会長を含め21名となりました。祝日と土曜の間の金曜の開催であったためか、都合がつきにくかった方が多かったかもしれませんので、来年以降の反省とします。今年度の総会時には新たな取り組みとしまして、九州地方本部のLINEグループを作成しました。開催の案内についてはメールとハガキの郵送という少しアナログな方法でしたので、今後はより多くの方に参加いただくこととスピーディな情報提供に寄与することが期待できます。

・体制変更

○九州地方副本部長 （新）吉江 修 （昭和62年卒 電気工学博士）

（旧）李 義頴 （昭和61年卒 電気工学博士）

李副本部長には前々回の2018年度に就任いただき、総会開催のなかった期間も含め、6年にわたり副本部長の任に当たっていただきました。また、この度就任いただきました吉江新副本部長、李前副本部長はいずれも早稲田大学北九州キャンパスに在籍されておられます。現在も早稲田大学にいらっしゃる両名にご協力いただけることは九州地方本部の大きな強みであると思っております。



菊池会長ご挨拶



本田副本部長挨拶



李前副本部長退任挨拶



吉江副本部長就任挨拶



恒例のくじ引き大会



西早稲田キャンパスの今を報告



全体集合写真

(記 (株) 九電配送サービス 青木 徹)

東海地方本部だより

東海地方本部では、去る10月31日（金）に東桜会館（名古屋市）にて2025年度の総会を開催いたしました。EWE本部より大石進一会長をお招きし、地方本部からは17名の会員にお集まりいただきました。

総会は、下村公彦本部長（1988電気）の開会挨拶で幕を開けました。挨拶では、6年ぶりに名古屋で開催され大いに盛り上がったオール早慶戦の報告がありました。さらに、東海地方本部では電力業界以外の会員が少ない現状に触れ、業界を問わず東海地方を盛り上げていきたいという目標が語られました。続いて、大石会長よりご挨拶をいただきました。その中で、大石会長から現在進められている理工キャンパス増設について紹介があり、完成イメージを交えた説明に、会員一同大きな関心を寄せていました。その後、歓談へと移り、和やかな雰囲気の中で交流が深まりました。

最後は、恒例の「紺碧の空」「都の西北」の斉唱とエールを行った後、野村英生副本部長（1991電気）の閉会挨拶があり、盛況のうちに閉会となりました。

ご出席賜りました大石会長ならびにご協力いただきましたEWE本部の皆様へ厚く御礼申し上げますとともに、引き続き本部と地方本部のきずなを大切にしていける所存です。

東海地方本部では、今後も定期的に総会を開催し、企業や世代の枠を超えて交流を深めていきたいと考えております。電気を学んだ者同士、近況報告や思い出話に花を咲かせるのは楽しいものです。東海地方にお住まいの方は、是非一度総会にご参加ください。ご連絡をお待ちしております。

東海地方本部 連絡窓口

E-mail:Nakamura.Kaoru@chuden.co.jp

（記 中部電力パワーグリッド（株） 伊東 倫明）



東北地方本部だより

東北地方本部は、東北6県および新潟県に在住または勤務する会員で構成されており、2年に1回程度、総会を開催し、会員相互の親睦を深めております。新型コロナウイルスの影響で総会の開催を見送っていた期間もありましたが、昨年より再開し、2年連続での開催となりました。本年は10月3日（金）に仙台市の「パレスへいあん」において、早稲田電気工学会会長の大石進一様をお招きし、東北地方本部会員13名の出席により開催しました。

総会は、森下和夫本部長の挨拶で開会し、大石会長よりEWEの現況や取り組みについて資料を交えてご紹介いただきました。その後、東北地方本部の役員改選について決議を諮り、青木宏昭氏が新本部長に、平井友則氏が新副本部長に就任することが承認されました。

総会に続いての懇親会は、大石会長を囲んでの談笑とそれぞれの近況を語り、親睦を深め合いました。大石会長からは、今後のEWE活動推進に向けた展望に加え、ご専門である数学分野の研究についても興味深いお話を伺い、非常に有意義な時間となりました。終盤には、諏訪三千男氏のエールで「都の西北」を斉唱し、盛況の中、散会となりました。改めてお忙しい中ご出席いただきました大石会長ならびにご協力いただいたEWE本部の皆さまに厚く御礼申し上げます。また、当地方本部は今後も微力ながら母校の発展のために尽力させていただく所存ですので、引き続きご指導賜りますようお願い申し上げます。

なお、転勤などで東北に来られた方、案内が送付されていない方は、東北地方本部事務局までご一報いただければ幸いです。

(記：東北電力 佐藤 吾子)



関西地方本部だより

関西地方本部では、例年、会員相互の親睦を深め、旧交を温めるとともに、職場や世代を超えた語らいの場として、総会ならびに懇親会、新入会員の歓迎会を開催してまいりました。2025年度は11月19日（水）にEWE大石進一会長にご出席を賜り、対面形式にて総会を開催いたしました。当日は、諸先輩方から若手会員まで34名の方にご出席いただき、世代を超えた交流が生まれ、終始和やかで楽しいひとときを過ごすことができました。

総会は、会長ならびに副会長の交代報告に始まり、浜野正幸前会長（S59電気）の退任、ならびに笹井裕之新会長（H4電子通信修）の就任挨拶が行われました。続いて、EWE大石会長より、早稲田電気工学会の近況について、資料を交えたご紹介があり、出席者一同、熱心に耳を傾けておりました。

その後の懇親会は、鈴江啓宏氏（S42電気）のご発声により開会となりました。久しぶりの再会に出席者の会話も大いに弾み、会場は終始賑やかな雰囲気になりました。恒例のビンゴ大会では、景品として「早稲田グッズ」の充実を図ったこともあり、参加者の皆様に大変ご好評をいただきました。最後は校歌斉唱の後、白石高生氏（S48電気）からご挨拶をいただき、盛況のうちに閉会となりました。最後になりましたが、本総会の開催にあたり、多大なるご協力を賜りました大石会長ならびにEWE事務局の皆様へ、心より御礼申し上げます。

さて、関西地方本部では、今後のさらなる発展に向け、関西地区在住会員の把握および総会出席の呼びかけに取り組んでおります。転勤等により新たに関西に来られた方、また関西在住の会員をご存知の方がいらっしゃいましたら、ぜひ関西地方本部までご一報いただけますと幸いです。

執筆：関小田 明里（H30電気 関西電力送配電）



会員だより

電気通信学科1961（昭和36）年卒 一紅会開催される

2024年、2025年と級会“一紅会”を開催にこぎつけてくれた世話人の仲間に役に立つ苦しみや喜びの話に続き、恒例の一番年輩者による乾杯で幕が上った。医者にかからないのが何よりの健康という人、電通で初めての女性は今もお酒をこよなく愛しているとか、ひとり身でこうして級友77人程のうち2024年は11人、2025年9人出席はこうした会では妥当だという人、英語での落語もきっと人を沢山集めていると思われる落語調で話をする人、日程を取り違えた人、級友の状況を教えてくれる人、そんな話を外が眺められる素晴らしいいつもの大きな部屋で楽しむ嬉しさを胸に2026年も集まろうと誓い16時頃家路につきました。

開催日・場所 2025.10.28 新橋駅5分中華料理店新橋亭^{しんきょうてい}

報告 原田



電気通信学科 1966 (昭和41) 年卒 ～米寿を目指しての2年目 旧交を温めよう～

晩秋の2025年11月6日(木) 11時30分から同期会を母校に近い「金城庵」で22名の参加を得て開催しました。

参加者(敬称略) 相原忠雄、荒木衛、大澤誠、小倉陽、小澤功、片岡忠衛、川津正史、神谷尚武、佐伯奉紀、島田嘉紘、庄田暁夫、杉原鉄夫、関武紀、曾根田耕造、土屋佳一、中村泰三、西堀齊、能勢征児、肥前泰之、山口豊太郎、吉野武彦、渡辺久恒

会は能勢さんの進行により、この9月に亡くなった川嶋功さんを偲ぶ黙とうから始まり、会食と懇談、曾根田さんの鼓演奏や有志面々の一言、さらに小澤さんから春に実施した「ほうれん坊の集い」報告等、あっという間に時間が経過、最後に中締め。



金城庵を背に記念写真

そして今後の同期会のやり方などの提案があり、1年ぶりの旧交を楽しみ、来年の再会を期して解散しました。

「ミニクラス会」としてS氏寄贈のオーディオセットを楽しむ会を4月21日(月)山梨県小菅村村営キャンプ場「ほうれん坊」で寄贈1年目の同じ日に開催しました。参加者は荒木衛、小澤功、片岡忠衛、佐伯奉紀、杉原鉄夫、土屋佳一、西堀齊、吉野武彦の8名。



寄贈時元気にセットアップしてくれていたS氏がその後他界され今回不在であったのは誠に残念です。参加の皆様はS氏を偲びつつ永年の研究成果の素晴らしい音をワイン片手に心行くまで楽しみました。最後は全員で恒例の校歌斉唱。

今後毎年開催しよう…という事になり、毎年4月21日に行う事と、会の名称を「電通ほうれん坊の会」にしました。

当日は天候も良く新緑一杯の山間で元気に泳ぐこいのほりに桜の花びらが舞っていました。

(報告 中村泰三・小澤功)

11月6日の模様をYouTubeにアップしています(級友限定)。

写真©荒木衛・小澤功・吉野武彦



電気通信学科1968（昭43）年卒クラス会

1968年電気通学科卒のクラス会を、2025年4月14日に四谷の主婦会館で行いました。卒業して57年がたち、傘寿（80歳）を迎える年を記念して開催しました。卒業後、2回のクラス会を開きましたが、今回は、15年ぶりの3回目でした。卒業生の総数は130名（内留学生が6名）で、その内、28名が参加しました。連絡先が不明な者が多く、EWE事務局の名簿と個人の情報を基に、無事、開催にこぎつけました。残念ながら判明しただけで、18名の逝去者がおられました。

参加者の全員から卒業後の仕事の状況、趣味、近況を紹介し合い、学生時代を思い出しながら、歓談しました。電気・通信・放送の各企業へ就職した者が大半でしたが、商社、芸能会社へも就職し、卒業後、大学教授、弁理士、医者、不動産業に関わった者が少なからずおり、多才な人材を輩出したことを誇りとしています。我々の学生時代は、1年次は東京オリンピックの開催、2年次は大学紛争による8カ月に及ぶ学生ストライキもあり、変動の大きな時期でした。

この時期、エレクトロニク産業は新しい通言、放送、家電、半導体、コンピュータの創生期から飛躍期に当たり、卒業後、日本の産業の礎を作る大きな役割を各自が果たした役割は大きく、大学での基礎教育と研究に感謝する次第です。

写真後列左：渡辺（功）、関根、河北、島田（道）、三上、藤井、中川、小宮、藤田、牧、小山、眞鍋、安藤。前列左：大久保、高垣、山本、山崎、後藤、柴田、菊地、田村、武内



幹事：関根、高垣、山崎、後藤（文責）

学生支援基金報告

ECCE2025参加報告

先進理工学研究科 電気・情報生命専攻 近藤研究室
修士2年 加藤 大貴（報告） 林 祐里



加藤大貴

ECCE2025 (IEEE Energy Conversion Congress & Exposition 2025) は、2025年10月19日から10月23日にかけて米国ペンシルベニア州フィラデルフィアにて開催された、電力エレクトロニクスと電気機械の統合分野における世界最大級の国際会議です。近藤研究室の林祐里さんと私は、本学会に参加しそれぞれ異なるテーマにて研究発表を行いました。この度学会参加にあたりましては、早稲田電気工学会より参加費のご支援を賜りましたことをご報告申し上げますとともに、厚く御礼申し上げます。



林 祐里

今回、林さんは「電気自動車のバッテリー電圧昇圧用DC/DCコンバータに適用した可変磁石リアクトルの着磁制御手法」、私は「同期リラクタンスモータの固定座標軸電流制御による空転再起動手法の提案」というテーマで発表を行いました。林さんは、電気自動車のバッテリー電圧を増幅するための部品であるDC/DCコンバータの小型化を目指し、そのうち多くの体積を占めている“リアクトル”に埋め込まれた磁石のNS極性（磁化）反転を行う制御手法を提案しました。DC/DCコンバータを構成する回路素子の特性から、磁化反転に必要な電圧の大きさと電圧印加時間を計算しスイッチングパターンを決めることで、最小限のエネルギーと短時間での磁化反転を実現する手法を立案しました。

また、私はレアアース磁石レスのモータである“同期リラクタンスモータ”の実用化に向けて、モータが意図せず回転している状態から起動を行う“空転再起動”方法を提案しました。電気自動車などに使われているモータは磁石の磁束を用いて空転再起動を行うことが一般的ですが、同期リラクタンスモータは磁石レ

また、私はレアアース磁石レスのモータである“同期リラクタンスモータ”の実用化に向けて、モータが意図せず回転している状態から起動を行う“空転再起動”方法を提案しました。電気自動車などに使われているモータは磁石の磁束を用いて空転再起動を行うことが一般的ですが、同期リラクタンスモータは磁石レ



発表の様子

スのモータであるためそのような方法が使えません。そこで、モータを駆動するインバータから低周波数の探索信号を送り、モータの回転位置を推定することで空転再起動を実現する方法を立案しました。

これらの研究成果を産業界と学术界の専門家の方々の前で発表し、質疑応答の場では多様な観点からご意見・ご助言をいただきました。そうした意見交換を通じ、自身の研究への知見が一層深まるとともに、海外の著名な先生方と直接議論した経験そのものが財産となり、今後の研究活動への動機付けともなりました。また、他セッションの講演聴講を通じて、電動化技術の最前線に触れることができ、大変有意義かつ刺激的な時間を過ごすことができました。さらに、学会期間中の合間には、海外の研究者や学生との交流の機会にも恵まれ、異なる文化的背景をもつ方々と直接対話することで、異文化コミュニケーションの奥深さと楽しさを改めて実感いたしました。

学会参加に加えて、開催地であるフィラデルフィアの文化を体験できたことも非常に良い経験になりました。広大でよく整備された街並みを行き交う、私よりも一回りも二回りも体格の大きな人々の姿や、飲食店において供される大ぶりのステーキを味わう機会などを通じて、まさにアメリカらしいスケール感と文化を肌で感じることができました。

最後に、日頃よりEWE学生会の活動に対して格別のご高配を賜っております大石会長、理事会の皆様、事務局長の井上様、事務局の原田様、羽生様に改めて深く感謝申し上げます。そして、本国際会議への参加をご支援くださいましたEWE会員の皆様に、重ねて心より御礼申し上げます。



フィラデルフィア美術館

EWE活性化委員会 2025年度活動報告

小野沢 純一（1971年卒電気）

2025年度EWE活性化委員会の活動を報告します。

1. 海外大学院留学説明会

学位留学を志す学生を支援するための説明会を開催しました。

- ・主催：米国大学院学生会
- ・共催：早稲田電気工学会（EWE）
- ・後援：早稲田大学理工学術院、船井情報科学推進財団
- ・日時：2025年6月22日（日）
説明会 14：00～15：35
懇談会 15：40～18：15
- ・場所：55号館 第二会議室
- ・講演者：4名
- ・参加学生：約20名

2. 講演会

EWE理事会（事業）と共催でEWE塾「技術者のための特許」を学生、教職員、EWE会員を対象に開催しました。

- ・日時：2025年10月17日（金）15：00～17：00
- ・場所：62号館1階大会議室A
- ・講師：弁理士 井上正則氏 iPARTNERS特許事務所代表
- ・演題：世界で競う技術者の武器「特許」を知ろう
- ・方式：対面およびZoomによるオンラインのハイブリッド方式
- ・講演内容：①データで見る大学の特許、特許の位置づけ
②特許の事例（こんなものも特許になる）
③特許が支えるビジネスモデル（成功例と失敗例）

- ④ベンチャー企業と特許
- ⑤ビジネスにおける特許の役割
- ⑥技術者にとっての特許の価値

・参加人数：オンラインを含め約50名

3. 先輩と学生との交流会

学生の就職活動を側面から応援する目的で先輩と学生との交流会を今年度も昨年度と同様に対面方式で開催しました。

・共催：EWE活性化委員会、早稲田電気工学会

・日時：2025年11月14日（金）

説明会 13：30～18：30（63号館2階 03・04・05会議室）

懇親会 18：35～20：00（63号館1階ロームスクエア）

・参加団体：27企業・2官庁

アルプスアルパイン、アンリツ、NEC、NHK、NTT R&D、大林組、
沖電気、川崎重工業、関西電力、コマツ、JR東日本、総務省、DNP、
中部電力、デンソー、特許庁、東芝、TOPPAN、TMEIC、日本製鉄、
日産自動車、日本光電、NRI、日立製作所、富士電機、富士フイルム、
北陸電力、HONDA、横河電機

・発表会参加学生：約110名

・懇親会参加者：約170名

4. EWE活性化委員会メンバー

岩本伸一先生が退任し、石山敦士先生と永島靖さんが新規メンバーとなりました。

三木博之 1962通	深川裕正 1963電	矢幡明樹 1964電	*小野沢純一1971電
大井一成 1974通	横尾忠晃 1974通	石山敦士 1977電	永島 靖 1983電

*委員長

EWE三月会 2025年度活動報告

2025年EWE三月会は新年早々唐澤幹事長の急死により波乱の幕開けとなりました。同年1月の例会は唐澤氏が生前に依頼済の早大笠井裕之先生に講師をお願いできましたが、2月以降講師は全く決まっておらず、残された幹事で講師探しに奔走しました。その結果、2月は急過ぎるので休会とさせていただきましたが、3月以降順次講師が決まり11月まで順調に例会を実施することができました。尚、毎年8月は夏休み、12月は忘年会となっており、例会を行っていません。

ところがこの間、8月12日には三月会の講師を数回引き受けて下さった、石川宏氏が逝去され、9月9日には元三月会幹事長だった片岡冬里氏がお亡くなりになりました。

このように三月会にとって2025年は重鎮を失う大きな痛手の年でした。三月会が最大のピンチを迎えたにもかかわらず、2025年も活動が継続できたのは、EWE事務局のご支援をはじめ、EWEの諸先輩・後輩及び関連する先生方のご支援・ご協力をいただけたからこそで、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

以下、2025年の開催内容を記します。

2025年の例会開催内容

- 1月例会 情報通信学科 最適輸送理論とその応用：笠井 裕之先生
早稲田大学 基幹理工学部 情報通信学科 教授、学科主任
- 2月例会 休会
- 3月例会 冷却原子による量子シミュレーションと量子計算：内野 瞬先生
早稲田大学 基幹理工学部 電子物理システム学科 准教授
- 4月例会 高温超電導コイル技術の現状とがん治療用サイクロトロンへの応用
石山 敦士先生 早稲田大学名誉教授
- 5月例会 〈IT社会の基本素養・サイバーリテラシー〉について：矢野直明先生
サイバーリテラシー研究所 主催
- 6月例会 AIと知的財産：佐藤 祐介先生／EWE三月会会員
知財事務所所長・弁理士

- 7月例会 光ファイバセンシング：小川 豊先生／EWE三月会会員
エヌケーシステム株式会社 シニアエキスパート
- 9月例会 IOWNで変わる世界：通信技術が支えるサステナブルな明日：
進藤 勝志先生
NTT研究開発マーケティング本部 研究企画部門 IOWN推進室
- 10月例会 シン・エネルギーネットワーク：喜久里浩之先生
早稲田大学 先進理工学部 電気・情報生命工学科 准教授
- 11月例会 ホログラム技術を用いた立体テレビの開発と将来動向について
佐藤甲癸先生 元湘南工科大学 教授



講演風景

以上、9回の例会を行い、12月に1月講師の笠井裕之先生を迎えて主婦会館プラザエフで忘年会を実施しました。



忘年会記念写真

EWE三月会幹事長 高垣 孝
三月会事務局幹事 矢田健一、
臼井雅弘

連絡先：ewesangetstukai@gmail.com

2025年度修士論文一覧

<電気・情報生命専攻>

- 井上 真郷 研究室 <https://www.eb.waseda.ac.jp/laboratory/inoue/>
 家田 駿佑 Convolutional Neural Networkを用いた漫画画像内オノマトペ文字の自動抽出モデルにおけるデータ不均衡問題への検討
- 王 ケイ博 拡張Bradley-Terryモデルによるスピードデート意思決定予測
 唐 焯 ピアノロール表現に基づく和音条件付き拡散モデルによるジャズ演奏生成に関する研究
- 糜 君若 深層学習に基づくスペクトルセンシングアルゴリズムの研究
 三浦 舞香 マルチモーダル深層学習による遺跡自動検出の高性能化
 諸原 雄哉 漫画画像の深層電子透かしにおける等色領域での画像品質低下の指摘とその改善
- 大久保将史 研究室 <https://m-okubo.w.waseda.jp/people.html>
 小沼 諒人 O3型NMO (M = Fe, Ni, Mn) のフッ化物表面修飾がサイクル特性に与える影響
- 川口 桃佳 疎水基拡張による溶解性向上とサイクル安定性を両立した水系フロー電池負極液の開発
- 柏原 樹 ナトリウムイオン電池の新規合成法探索におけるライフサイクルアセスメントとコストについて
- 熊谷 颯馬 ナトリウムイオン電池負極材料への応用を志向した有機活物質の電極設計
 木原 史陽 酸素ネットワーク抽出によるプロトン伝導体の探索
 児玉 創志 レドックスフロー電池用活物質における配位数の電極特性への影響
 宮崎 達也 カチオンポテンシャルに基づく設計とZnドープによる高レート特性を目指したナトリウムイオン電池用正極材料開発
- 岡野 俊行 研究室 <http://www.okano.sci.waseda.ac.jp/>
 金 悠旻 鳥類の磁気受容メカニズムの解明へ向けたErCRY4のTyr319変異体作製及び紫外-可視分光解析
- 笠毛康太郎 ゼブラフィッシュを用いた白色光又は単色光下での磁気応答能の解析
 平 拓 ゼブラフィッシュ眼球・尾びれにおける紫外光依存的なzCry6発現誘導
 久澤恵利香 ヒトクリプトクロム1の光受容能が概日時計の転写抑制に与える影響の検証
 山本 悠太 遊泳環境や体長に応じたキンギョの接触走性の変化
- 小林 正和 研究室 <https://k-labo.w.waseda.jp/>
 佐々木達也 Mo-AgGaTe₂界面状態の改善によるAgGaTe₂太陽電池の性能向上
 陳 英傑 低温バッファ層がGaAs(001)上SnTe薄膜の結晶は行こうと表面状態に及ぼす影響の解析
- 陳 泉熙 初期成長プロセス制御によるサファイアr, Sナノファセット面基板上ZnTeの単一ドメイン化の検討
- 近藤 圭一郎 研究室 <http://www.kondolab.eb.waseda.ac.jp/>
 笠井 宏社 SS方式を用いた走行中ワイヤレス給電における伝送電力の変動を生じない地上コイル継ぎ目横断手法
- 加藤 大貴 直流磁界制御による同期リラクタンスマータの空転再起動法に関する研究

- 川崎 颯哉 直流電気鉄道における高圧受電変電所を併用した地上蓄電システムへ適用するEDLC容量最小化制御
- 崎山 拓馬 誘導電動機速度センサレスベクトル制御における固定子回路定数自動同定手法に関する研究
- 武田 佳晃 走行抵抗特性と主回路機器効率特性を考慮した高速鉄道の省エネルギー運転法
- 林 祐里 EV駆動システムのバッテリー電圧昇圧DC-DCコンバータに適用する可変磁石リアクトルの着磁制御
- 高松 敦子 研究室 <https://sem-takamatsu.w.waseda.jp>
- 須田 智晴 細胞集団における周囲細胞とリーダー細胞の振る舞い
- 尾山 皓亮 pili 線毛構造物の駆動力評価
- 川田進太郎 個体配置に依存した抗力を考慮した運動性シアノバクテリア集団の数理モデル
- 川畑 拓真 上皮組織における細胞の形態・運動特性の集団サイズ依存性
- 高橋 杏 真正粘菌変形体の数理モデル化による馴化実験の再現
- 長瀬 賢造 真正粘菌変形体の時間周期刺激による記憶の重量依存性
- 宮本 康平 二層粒子-ファイバーモデルを用いた細胞の運動とキラルなファイバーパターン形成過程の解析
- 武田 京三郎 研究室 <http://www.qms.cache.waseda.ac.jp/>
- 新井 開智 量子情報処理の基礎構造と電子論的解釈～古典計算との比較を介して～
- 平田慧仁郎 世界線モンテカルロ法による有限温度量子系の物理量期待値計算～ハバード模型への適用～
- 藤原 大地 量子ドットに閉じ込められた少数電子系のスピン多重度～Rashbasピン軌道相互作用と電子相関～
- 浜田 道昭 研究室 <https://www.hamadalab.com/>
- 橋本 和磨 RNAMergeDistill：多教師知識蒸留によるRNA言語モデルの開発
- 西村 友宏 ニューラルマルコフ確率場による折り畳みエネルギーランドスケープを考慮した複数構造標的RNA設計
- 松本 英倫 RaptGFN: GFlowNetsを用いたRNAアプタマー配列の設計
- 砂金 美月 生薬誘発トランスクリプトームの解析による寒熱証の理解
- 荻野 祥平 Ladder Distance に基づく RNA ウイルスのゲノム特徴解析
- 濱田 一輝 RNA-リガンドドッキングシミュレーションを用いたバーチャルスクリーニング最適化のためのパイプライン構築
- 小曾川雄起 公共データベースを活用した細胞老化関連新規lncRNAの網羅的探索
- 楊之介 組合せ行動空間オフポリシー学習での反復自己蒸留を使用した分散削減手法の提案
- 林 泰弘 研究室 <http://www.hayashilab.sci.waseda.ac.jp/hayashi/>
- 佐藤江理名 DER導入システムにおける電力供給経路列挙による配電損失最小化構成厳密解導出手法
- 進士 聖夫 分散協調制御と実時間制御による階層型EMSの提案と市場応動性能の評価
- 高橋 壮 配電系統電圧制御における連合学習を用いたスマートインバータ群の協調的制御パラメタ決定手法に関する研究

- 中野はるか 電気バス運行制約下における再生可能エネルギー電力活用のための充電計画策定手法に関する研究
- 吉川 優衣 大規模システムにおける事故発生地点の不確実性に対応可能な慣性低下対策インバータの制御手法に関する研究
- 渡邊 崇史 電気自動車導入可能量最大化に向けた自律型充電シフトおよび無効電力制御の統合制御手法に関する研究
- 坂内 博子 研究室 <https://hamhamqdspt.mystrikingly.com/>
川津 美緒 α -synucleinの過剰発現及び人工シナプスオーガナイザー CPTXの細胞外投与がシナプスに与える影響 (仮)
- 兼本 奈歩
上田 美咲 タウ過剰発現条件下における樹状突起スパインとタウの定量的解析
松井 久直 光遺伝学タウ操作ツールOptoTau導入Neuro2a細胞における、青色光照射による安定なタウ凝集誘導法の開発
- 李 エリヤ 光遺伝学ツールを用いて誘発したタウタンパク質凝集ストレスに対する細胞応答の解析
- 牧本 俊樹 研究室 <http://www.makimoto.eb.waseda.ac.jp>
小野 芳樹 p型AlGaAsN中の正孔の有効質量に関する研究
田中 創太 GaAsNにおけるフォトルミネッセンス特性の成長温度依存性に関する研究
吉田 知生 低温成長Si-GaAsN中の欠陥準位に関する研究
若杉 遼太 GaAs/GaAsN 多重量子井戸の光吸収特性・光伝導特性に関する研究
- 村田 昇 研究室 <https://www.murata.eb.waseda.ac.jp>
芦沢 菜月 Diffusion Modelを用いた異常検知手法の検討
鈴木 詠斗 ベースライン選択を考慮したIntegrated GradientsとLayer-wise Relevance PropagationによるTransformer内部表現の解明—依存構文解析による妥当性検証—
- 渡邊 遼真 マルチモーダルなGNNにおける説明可能な影響力予測
重道 淳志 混合ハッシュを用いた3D空間表現
- 若尾 真治 研究室 <http://www.wakao.eb.waseda.ac.jp/>
秋山 航 PV大量導入システムの多目的運用最適化におけるデータマイニング手法の検討
岩下 希 蓄電池併設型PVシステムを有する避難施設におけるピークカット制御の高度化
- 岡崎 拓弥 渦電流損失とシールド効果の評価に基づく磁気シールドの設計情報抽出
城内 廉 時空間グラフ構造を用いたGNNによる日射量予測手法の開発
鈴木 雅之 PV大量導入基幹システムにおけるグラフ列挙を活用した停電作業システムの決定支援手法の検討
- 松成 駿輔 Dropoutの確率的摂動を組み込んだCNNによる磁気シールド位相最適化の大域性向上
- 宮崎 良祐 PV大量導入システムにおける高圧契約需要家群の実需要推定手法の開発
横田 達 Frozen Permeability法によるトルク分離解析を活用したIPMSM最適化設計の高度化に関する検討
- 李 掣恒 時空間情報融合を用いた深層学習モデルによる短時間日射量予測手法の開発

- 和佐 泰明 研究室 <https://wasalab.w.waseda.jp/>
 落合 泰己 公平性フィードバックに基づく受諾閾値制御型自動交渉戦略の一考察
 柏本 悠多 住宅地域におけるエネルギー地産地消を実現する実時間分散協調制御系設計に関する研究
 加藤 波輝 住宅地域エネルギー管理システムの公平性を考慮した分散最適化
 田中 海里 1型糖尿病患者のための膵臓内数値モデルの改善とレプチン併用インスリン投与量の適応制御
 中島 航平 3D Gaussian Splattingの欠損領域補完に向けたドローンの自動制御
 梁嶋 柊治 巡回警備問題における制御系設計に関する研究

- 渡邊 亮 研究室 <http://www.watanabe.eb.waseda.ac.jp/>
 鶴谷 瞭太 ニューラルネットワークを用いたF-16戦闘機の空力特性の予測と制御
 中村 颯馬 勾配表現の違いに着目した列車運動モデルと省エネルギー運転の検討
 成瀬 凌太 熱間圧延ROTにおける鋼板温度制御
 中林賢之介 ニューラルネットワークを用いたジェットエンジンのモデリングと制御

<情報理工・情報通信専攻>

- 石川 博 研究室 <https://hi.cs.waseda.ac.jp/index.php/ja/>
 大西真基久 顔型に似合う髪型の提案および髪型転送
 岡村 和樹
 村田 侑輝
 梁 毅明 近接場反射を考慮したガウシアンスプラッティングによる新規視点画像生成

- 上田 和紀 研究室 https://www.ueda.info.waseda.ac.jp/index_j.html
 岡村 朋佳 グラフ書換えプログラムのトークンに基づく書き換え制御
 志田 秀徳 多体衝突モデルにおける多項式近似を用いた区間制約処理
 鄭 嘉蓉 Graph Rewriting Language as a Platform for Quantum Diagrammatic Calculi
 橋本 悠汰 グラフ書き換え言語 LMNtal を使用した確率モデル検査

- 内田 真人 研究室 <https://uchida-lab.jp/>
 井上 裕仁 ラベル間の階層構造を考慮した熱間圧延工程における温度異常検知
 竹川 修平 段階的デコーダTransformerによる熱間圧延における逐次温度時系列予測
 舘 知哉 Enhancing Weakly Supervised Learning by Integrating Two Pairwise Information
 舘内 勇翔 応答遷移の兆候を用いたトークン選択型ジェイルブレイク攻撃
 中井 厚博 トークン選択を通じた人間介入型ジェイルブレイクの脅威分析

- 小川 哲司 研究室 <http://www.pcl.cs.waseda.ac.jp/>
 兒新 治紀 視覚言語モデルを用いた特徴記述に基づく画像認識フレームワークに関する研究
 小林 恵輔 キャリブレーションフリーな多視点映像を用いた多物体追跡モデルの検討
 当間佐耶佳 歌唱音声の音響変動特性を考慮した歌唱者の表現学習
 矢部 拓真 音質主観評価における評価者選抜のための音声サンプル選定の重要性
 若山 拓矢 風車軸受の損傷レベル推定における正常状態を基準とする正規化を用いた部分的ドメイン適応

- 笠井 裕之 研究室 <http://kasai.comm.waseda.ac.jp/>
ホウ ショキ
- 笠原 博徳 研究室 <https://www.kasahara.cs.waseda.ac.jp/index.html.ja>
岡田陽一郎 intel p/eコア上でのoscarコンパイラclockgating電力評価
権藤 創太 OSCARベクトルマルチコアにおける推論処理の高速化に向けたローカルメモリ管理手法
島田 稜大 大規模言語モデル (LLM) 推論における時間減衰を用いた動的KVキャッシュ削減手法の研究
横川 俊介
- 甲藤 二郎 研究室 <https://www.katto.comm.waseda.ac.jp>
池邊諭次郎 NeRVモデルの知識蒸留を用いた軽量化とフレーム外挿予測応用
清水 颯人 祖先特徴統合によるLiDAR点群の高効率ニューラル圧縮
杉本 遼太 3次元物体分類におけるSHAPに基づく寄与度推定と適応的点群ダウンサンプリングへの応用
中原 将希 MogaNetを用いたSimVPのモデル改良
野口 陽生 ニューラル色表現を使った3D Gaussian Splattingモデルの圧縮
- 亀山 渉 研究室 <http://www.km.comm.waseda.ac.jp/>
大矢 耀介 ARMの気象観測データを用いた大規模データセットによる雲水量推定の研究
久保 真季 生体情報と広告特徴及び個人嗜好を統合したVR広告画像視認時の感情推定
相馬優里香 楽曲聴取時の感情推定における生体情報と音響特徴量の活用及び時間的整合性に関する研究
町田祐理香 リアルタイム遠隔操作時の遅延低減に向けた生体情報とLSTMによる腕の座標変位予測に関する研究
Yu Yuanyong Studies on Multi-modal Factors Affecting User Engagement on YouTube Trending Videos — DistilBERT-based Sentiment and Visual Feature Analysis —
- 河原 大輔 研究室 <https://www.nlp-waseda.jp>
中村 友亮 合成データを用いた大規模言語モデル学習の効果分析
榎本倫太郎 大規模言語モデルにおける多段推論の構造的解析と高効率なプロセス評価器の構築
笹川 慶人 日本語大規模視覚言語モデルの性能向上に向けたデータセットの構築とその利用
尹 子旗 Designing Privacy-Preserving Smart Home Assistants with Small Language Models
織田 宥楽 韻と内容を制御した日本語ラップ歌詞の自動生成
胡 文滔 Language Control in Multilingual Language Models via Sparse Autoencoder Features
Zwirner, Sebastian Evaluating the Impact of SAE-based Language Steering on LLM Performance
- 木村 啓二 研究室 <http://www.apal.cs.waseda.ac.jp/kimura/index.html.ja>
傅 新元
LIU Yanqing

- 木治康一郎
朱 允楷 ロボット動作生成モデルの組み込みコンピュータ上での性能評価
Xu Haocheng
野谷 優仁 OSCARベクトルマルチコアへのベクトル繰り返し命令拡張と性能・電力評価
- 丸茂 直樹 NISQを用いた量子機械学習へのマルチプログラミングの適用およびFTQC
における表面符号のノイズ適応型配置の性能評価
- 村田 一晃
- 小林 哲則 研究室 <http://www.pcl.cs.waseda.ac.jp/>
郭 亜北 歴史発話を補助情報として利用したストーリーミング音声認識
萱沼 勢太 Teach-Back に基づく手術説明理解度の自動評価と医師向けフィードバック
レポート生成
- 酒井 哲也 研究室 <http://sakailab.com/>
Haodong Liu 大規模言語モデルを用いたVADER 感情分析の構造的拡張手
徳味 大貴 課題種類に着目した VR 学習環境の環境条件が学習成績に与える影響
橋本 和音 機械読唇の精度向上に向けた自然言語処理による母音列からの日本語文復
元
- Mingming Liu 検索拡張生成モデルにおける複数正解文書下での干渉文書位置と回答精度
への影響
- Zijian Hu Team-of-Thought (ToT) における分岐制御を用いたマルチモデル推論手
法の設計
- Yuhang Dong Satirモデルに基づく防御的仮想患者のモデリングと評価
Zhechen Tu A Study of Knowledge Access and Stability of Large Language Models in
Compositional Question Answering
- Kai-xin Chang A Study on Cost-Effective, Cascade Approach to Dialogue Act
Classification
- Hanpei Fang Do Large Language Models Favor Recent Content? A Study on Recency
Biasin LLM-Based Reranking
- Xuyi Zheng TRUTHFULNESS UNDER PROMPTS: SYSTEMATIC EVALUATION
OFHALLUCINATIONS IN LLMS WITH TRUTHFULQA
- Jian Wang Explicit Focus Control for Knowledge Base Question Generation
- 佐古 和恵 研究室 <https://sako-lab.jp/>
堤 真聖 zkVMの包括的性能評価と分析
木村 悠人 Enhancing CryptOpt with Analysis and an LLVM Bridge
川原 悠佑 実態調査に基づくパスキー認証の実装アンチパターンの抽出と分析
塩谷麻紀子 金融包摂とプライバシーを両立した透明性の高い与信審査モデルの提案
水野 重弦 Issuer-Hiding Verifiable Credentials の実現の検討
森田 航平 天秤ベース投票向けの機構製作と並列天秤の提案
- 清水 佳奈 研究室 <https://www.cbio.cs.waseda.ac.jp/>
穴田 悠人 関数秘密分散法による高効率な秘匿決定木評価手法の提案
藤川向日葵 全ペア類似度検索手法 SlideSort のタスク並列による高速化
若林 宇明 機械学習を用いた自動ミックス・マスタリング支援ツールの開発

- 菅原 俊治 研究室 <https://www.sugawara.org/jp/>
井口 要 異種エージェントを含むマルチエージェント環境におけるクラスタリングと経験共有に基づく効率的な強化学習手法と階層型強化学習に基づくスキル多様性に関する研究
- 中島 陸 アビリーンのパラドックスを再現するゲーム理論的モデルの提案と成立条件の分析
- 鈴木 公平 Transformerモデルを活用した行動予測ネットワークによるマルチエージェント深層強化学習における効率的な相互モデリング
- Li Zhi Complex Passenger Traffic Environment with Multi-Agent Reinforcement Learning Elevator Scheduling
- He Daihan Multi Agent System Reinforcement Learning with multi-modal observation for Networked System Control
- ZHU YUWEI Carbon Market Simulation Based on Multi-agent Reinforcement Learning
山田功太郎 粒子群最適化を利用したマルチエージェントシステムによるブロックスタッキング手法の提案
- 戸川 望 研究室 <http://www.togawa.cs.waseda.ac.jp/>
池上 裕香 LLMを用いたIoTデバイスに対するセキュリティ評価の自動化
江田 琉聖 機械学習を用いた消費電力解析に基づくIoTデバイス異常動作検知手法
太田 岳 量子・古典ハイブリッド計算による実用的組合せ最適化問題の効率的解法に関する研究
- 中西 響 大規模言語モデルを用いたIoTデバイスと生成AIのセキュリティ評価手法
稲葉慎之助 特異値分解と係数除去によるQUBO簡略化手法とエネルギー地形解析に基づく探索性能向上
- 中里 秀則 研究室 <https://www.nz.comm.waseda.ac.jp>
小林 春斗 Named Data Networking で実装した Service Function Chaining の分散トレーニング手法の提案
- MAYR, Max daniel Robust Verification of Consumer-Grade LiDAR Point Clouds: Hybrid Algorithm Evaluation for Urban Scene Comparison
- 渡邊 李駆 ブロックチェーンを活用した分散型IoTデータ管理
木村 克俊 NLSR-fs: NLSRとSFCのファンクション選択機構の統合
- 中島 達夫 研究室 <http://www.dcl.cs.waseda.ac.jp/>
加藤有希菜 リモートチームにおけるAIパートナーとAR視覚化を用いたインフォーマルコミュニケーション支援のデザイン検討
- 神津 慧 論文ネットワーク探索における没入型可視化が構造的知識獲得に与える影響の検証
- 堀川 莉子 生成AIの画像と詩を用いた能動的な意味生成を促すPersonal Informaticsシステムの探求
- 早川 航太 Mixed Reality 空間における映像視聴のための撮影カメラ姿勢に合わせた画面の動的再配置システムの提案と評価
- 兪 燮風 Virtual Reality環境における仮想対戦相手の強さとタスク複雑度がタスク遂行に及ぼす影響に関する研究
- 前原 文明 研究室 <https://sem-maehara.w.waseda.jp/>
木村 悠華 異なるユーザ移動速度環境における複数送信アンテナを用いた多元接続方式選択法に関する研究

- 小林 龍馬 マルチパスフェージング環境下における符号化FBMC-MIMOの伝送特性に関する研究
- ヒダヤットジハナルサ アンテナ軸ずれ存在下におけるOAM-MIMOへのビームフォーミングの適用効果に関する研究
- 横谷 朗 機械学習を用いたOFDMとFBMCの併用方式に関する研究
- 森 達哉 研究室 <https://nsl.cs.waseda.ac.jp/>
- 戸田 宇亮 PyPI悪性パッケージの実態解明と高信頼性マルチエージェントによる自動検出
- 若井 琢朗 推論過程におけるDNN中間表現を用いたマルウェア伝送攻撃の提案と評価
- 長橋 舞 フェイストラッキング技術を用いた個人認証方式の提案と評価
- 森田 逸郎 研究室 <https://morita.w.waseda.jp/>
- 本松 穂果 配列化した単一光子検出器を用いたパルス位置変調通信の高速化の研究
- 原 英祐 ブロック浮動小数点数を用いた近似通信に関する研究
- 武藤 峻汰 Probabilistic Constellation Shaping信号に対する機械学習を用いたパフォーマンスモニタリングに関する研究
- 高田 颯人 並列自由空間光通信伝送路における光学的位相差補償方法の高速化・安定化
- 山名 早人 研究室 <https://www.yama.info.waseda.ac.jp/ja/research>
- 黒澤 譲 政治的バイアスの自動検出に向けた日本語データセットの提案
- 蘇 清松 Fine-Grained Financial Sentiment Analysis via Multi-Source Knowledge Enhancement and Qualitative-Quantitative Dual-Stream Mechanisms
- LIN Ying (林穎) Integrating Graph Collaborative Signals with Large Language Models for Item Cold-Start Recommendation
- 橋本 太志 準同型暗号と隔離実行環境を用いた高精度かつ低遅延なセキュアBERT推論
- 古川 大樹 A Feature-Cluster Exclusion Approach to Improve Robustness against Transient Variability in Touch-Based Authentication
- 木内 絢美 拡散モデルと遺伝的アルゴリズムを組み合わせたバインダ分子設計
- 朱 浩芸 Private Multivariate Function Evaluation using CKKS-based Homomorphic Encrypted LookUp Tables
- 鷺崎 弘宜・鷗林 尚靖 研究室 <http://www.washi.cs.waseda.ac.jp/>
- (旧 鄭研) 松山 信大 2段階予測による離散制御器合成の計算時間予測手法
- (旧 鄭研) 坪 秀樹 マルチコンテキスト情報を活用したBug LocalizationのためのLLMを用いたQuery
- (旧 鄭研) 生方 寿英 Learning Graph-Aware Exploration Policies for On-the-Fly Directed Controller Synthesis
- (旧 鄭研) 大塚 遊 地方自治体のDX実現におけるリスク識別のためのProject FMEA
- 世羅 俐恵 Data-Driven Personas and Frustration-Aware Agents: Automating the Discovery of Software Requirements
- 植松 彩奈 BUPLinker: Building Users and Developers in Mobile Application Evolution
- 大久保利哉 機械学習システムのためのシナリオベースかつデータ駆動型マルチレイヤリスク分析フレームワーク
- 小原 匠 K-12学生向けAI教育の学習効果評価手法（ループリック）と自動評価システムの提案

- 土田 拓将 脅威レポートからAIシステムへの攻撃シナリオを生成するLLMベースパイプライン
- 森 俊介 大規模言語モデルと知識グラフを用いた根拠に基づくアーキテクチャ設計意思決定支援
- 鮎川 拓実 Machine Learning Application Argument Patterns and Support Framework for Assurance Case Construction
- 渡辺 裕 研究室 <https://www.ams.giti.waseda.ac.jp/>
- 小泉 翔 メトリック深度推定に基づく単眼SLAMの安定化に関する研究
- 細郷 壮希 文脈に基づくフレーム選択による動画内人物に焦点を当てた連続感情認識
- 速見 泰雅 暗黙的ニューラル表現における効率的な動画理込
- 范 洪睿 特徴強化手法を用いた物体検出モデルの検出精度向上に関する研究
- 國富 平 Clinically Prioritized Fusion Incorporating Slice-Level Attention and Continuity Modeling for Robust Knee MRI injury Classification
- 中島 聖 エゴセントリックな未来の姿勢予測手法の研究
- 伊 玖 Pose-Guided Human Image Generation via Multi-Stage ConrolNet Fine-Tuning
- 劉 心毅 A Conditional Diffusion Framework for 3D Human Pose Refinemnt: Leveraging Temporal Consistency
- 山田 啓印 Brain Rot Profiling: Understanding Social Media Addiction Through Large-Scale User Activity Logs and Short Videos
- シモセラ・エドガー 研究室 <https://esslab.jp/ja/>
- 伊藤 幸旬 Reducing Domain Shift in Road Sign Detection with Image-Conditioned Diffusion Models
- 木下 真宏
QIN QICE Fashionability-Enhancing Outfit Image Editing using Conditional Diffusion Models
- 關 百咲 Semantic Typeに基づくパラメトリック制約を導入したLLMによるWeb UI 編集手法の提案
- 田中 久美子 研究室 <https://ml-waseda.jp/>
- 伊澤 大悟 評価的選択を利用したチャート説明文自動生成の信頼性向上
- 百瀬 篤志 情報量指標を利用したLLM推論効率化
- 守山 魁 テキスト情報を活用した共分散行列のノイズ抑制とポートフォリオ最適化

<電子物理システム学専攻>

- 川西 哲也 研究室 <https://kawanishi.w.waseda.jp/>
- 有富 大起 2並列マッハツェンダー変調器における電気クロストーク強度の測定
- 折原 陽志 光Two-tone信号を用いた2次および3次非線形歪み成分の干渉測定による光デバイスの特性評価
- 小松 尚 MMF光伝送の温度依存性解析と移動無線モデル適用可能性の検討
- 捨田利 遼 雑音可変レーザー変調用のランダムウォーク信号が形成するスペクトル包絡線の理論モデルと実測検証
- 宮野 恵佑 複素チャネル応答の軌跡を用いた広帯域 OFDM レーダーによる遅延推定手法の検討

- 木村 晋二 研究室 http://www.f.waseda.jp/shinji_kimura/
 辻 周悟 量子状態空間における量子アニーリングの大域解探索に関する研究
 西山 衛 畳み込みニューラルネットワークのデータ拡張ポリシー最適化に関する研究
 増田 千雅 量子アニーリングを用いた手書き数字生成のための制限ボルツマンマシンの学習に関する研究
- 史 又華 研究室 <http://www.islab.cs.waseda.ac.jp/wp>
 孟 令飛 Spiking Neural Network Design Tailored for Motor Imagery EEG Classification
 石黒将太郎 3Dアバターの自然な表情編集に関する研究
 大森 成晃 短期シナプス可塑性を用いたSpiking Neural Networkにおけるマルチタイムスケール分類精度向上に関する研究
 西川 航生 微表情認識の精度と推論速度向上に関する研究
 西ノ原 亮 複数TENGを用いたインターフェース回路に関する研究
 野口 颯汰 自然な表情変換を用いたフォトリアルかつ軽量の3Dアバター生成モデルの開発
 増田 悠人 健常者及び義足の走り幅跳び選手における姿勢推定精度改善及び競技指導支援に関する研究
 松浦 澄 生成画像及び未学習の画像を識別する研究
 村田 航希 アピランスペース注視点推定の精度向上に関する研究
- 谷井 孝至 研究室 <http://www.tanii.nano.waseda.ac.jp/>
 阿部 和実 表面状態によるナノダイヤモンド中の窒素-空孔中心の特性の違いに関する研究
 太田 智基 ダイヤモンド中の単一窒素-空孔中心のリアルタイム深さ推定システムの開発
 大本 将也 放出光子の2次自己相関によるダイヤモンド中の窒素-空孔中心の個数計測
 恩田 理彩 スパイクタイミング依存性可塑性による自己接続ニューロンの伝搬遅延時間に依存した周期的接続淘汰に関するシミュレーション
 岸田 理子 ナノチューブスタンピング法による多種細胞への物質導入に関する研究
 関口 顕 ダイヤモンド中の単一窒素-空孔中心によるラジカル電子スピンを介した交流磁場計測
 野村 涼太 高温オゾン処理によるナノダイヤモンド中の窒素-空孔中心の特性向上
- 乗松 航 研究室 <https://www.nano.sci.waseda.ac.jp/>
 仁科 匠人
 佟 昕哲
- 森本 雄矢 研究室 <https://www.biomems.sci.waseda.ac.jp/>
 島本 寛太 ヒト運動神経-筋共培養組織におけるゲル材料依存的な機能特性の評価
 宮下 大毅 電極アンカーを用いた培養骨格筋組織の電気的応答評価
 三井 涼 逐次制御可能な磁力負荷が可能な運動評価培養デバイス
- 柳澤 政生 研究室 <http://www.islab.cs.waseda.ac.jp/wp/>
 高杉 優太 3次元顔再構成を用いた微表情認識手法に関する研究
 大内 秀馬 表面筋電位 (sEMG) 測定による前腕, 上腕の筋疲労度推定に関する研究

金山 凌 エアライティングによるひらがな文字認識に関する研究
 小泉 裕太 スパイキングニューラルネットワークを用いた音声認識に関する研究
 渡辺 盛義 LLM Agentにおけるナレッジグラフを用いたRAGの動作解析に関する研究

山本 知之 研究室 <https://www.cms.sci.waseda.ac.jp/>
 加藤 弥摩人 機械学習を用いた骨強度モデルの検討

渡邊 孝信 研究室 <https://www.watanabe-lab.jp/>
 粟田 舞衣 シリサイド系半導体を用いた熱電発電デバイスのプロセス技術の開発
 神永 涼 羽ばたき型ドローンの受動安定性解析のための動力学モデル構築
 佐藤 優圭 翅脈および翼膜が機体の揚力に与える影響に関する研究

出浦 桃子 研究室 <https://crystal.sci.waseda.ac.jp>
 山本 稜将 縦型ダイヤモンドMOSFETの特性向上に向けたデバイス構造改善

<ナノ理工学専攻>

渡邊 孝信 研究室 <https://www.watanabe-lab.jp/>
 荒山 瀧一郎 極低温で動作可能な原子スイッチの開発と熱電発電デバイスの熱電レグ部の温度差特定に関する研究
 竹松 孝太郎 Si-O2元素系用機械学習ポテンシャルの開発に関する研究
 内藤 真慈 機械学習ポテンシャルによるNi/Ge界面およびSiGeのドライエッチングプロセスのシミュレーション
 三浦 拓也 キャビティ付き集積熱電デバイスの開発とNiシリサイド導入の検討

祝 卒業〈2025年度学部卒業生一覽〉

〈電気・情報生命工学科〉

井上 真郷 研究室 <https://www.eb.waseda.ac.jp/laboratory/inoue/>

原田 芽実 飯島 涼太 今泉 湧斗 海野 史耀 亀井 梨花
川島 菜月 布施 琴音

大久保 將史 研究室 <https://m-okubo.w.waseda.jp/>

大東慎之祐 呉屋新之助 小岩浩太郎 有賀 幸佳 篠崎 寛仁
新本 翔大 後藤和花奈 佐賀 未悠 水野 颯人

岡野 俊行 研究室 <http://www.okano.sci.waseda.ac.jp/>

伊藤 百花 小野 桃奈 小館 寧々 近藤 うた 戸田明日風
西村 友杏 三浦 伊織

小林 正和 研究室 <https://k-labo.w.waseda.jp/>

片山 航汰 木村 暖人 小林 理暉 高柳 隼藏 宮澤 伶
村上 寛武

近藤 圭一郎 研究室 <http://www.kondolab.eb.waseda.ac.jp/>

伊藤 陽菜 小山 朋樹 甲斐 匠晃 片山 愛來 戸川美紀夫
鎧塚 真帆 本近凜太郎

高松 敦子 研究室 <https://sem-takamatsu.w.waseda.jp>

大石 真帆 大塚 悠平 小國 晴 長塚 綾真 服部 大輝
原田 紗 稗田 隼人 福当 琉介

武田 京三郎 研究室 <https://www.qms.cache.waseda.ac.jp/>

上田 隆貴 小山内建登 梶山 太軌 玉谷 幸弥 矢澤 駿
前田 優哉

浜田 道昭 研究室 <https://www.hamadalab.com/>

重野 凌雅 千住 孝紀 新免 夏未 鍋山 亜希 福嶋 倫生
内野 萌花 大附 綾也

林 泰弘 研究室 <http://www.hayashilab.w.waseda.jp/>

鎌田 和大 石坂 匡基 齊藤 慎人 鳥海 貴正 岩瀬 晁海
奥山詩英莉 渡辺 怜奈

坂内 博子 研究室 <https://hamhamqdspt.mystrikingly.com/>

江口 智仁 石黒 友翔 王 澤平 岡崎 墨斗 片岡 純弥
木原龍太郎 窪田 総介 HONG YENJI 額田 真統

牧本 俊樹 研究室	http://www.makimoto.eb.waseda.ac.jp					
宇山 萩介	江頭 耀	高橋 桜	百海 勇飛	福島 義高		
松嶋 悠生	吉田 穂美					
水内 良 研究室	https://mizuuchilab.w.waseda.jp/					
岩下 智紀	笠松 怜央	岸山 侑以	桑原 涼歌	並木 圭輔		
吉田 深優						
村田 昇 研究室	https://murata-lab.github.io/					
大久保快起	松浦 玄竜	吉田 雄紀	篠原 壮貴	久保田 匡		
木谷 莉々						
若尾 真治 研究室	http://www.wakao.eb.waseda.ac.jp/					
木村 真慈	大林 真優	加納 佑輝	後藤 夕佳	谷藤 慧吾		
中澤 綜柊	三浦 早喜					
和佐 泰明 研究室	https://wasalab.w.waseda.jp/					
阿部 元紀	大坂 蒼翔	沖坂 一輝	鈴木 翔	馬場 俊輔		
藤田 悠雅	箭子 亮太	山崎昂太郎				
渡邊 亮 研究室	http://www.watanabe.eb.waseda.ac.jp/					
大林優理奈	井上 倭	佐藤圭志朗	高木 有登	早井 匠吾		
板東 航汰	宮本さくら					

〈情報理工学科・情報通信学科*〉

石川 博 研究室	https://hi.cs.waseda.ac.jp/index.php/ja/					
白杵 里紗	荻野 頌太	神岡 晃平	小平 悠太	平井 友翔		
山崎 平						
上田 和紀 研究室	https://www.ueda.info.waseda.ac.jp/index_j.html					
西川 佳汰	山下 知哉	松村 陽輝				
内田 真人 研究室	https://uchida-lab.jp/					
岩崎 舞桜	川上 浩希	喜利 祐也	船橋 洸陽	石橋 貴之		
伊藤 眞翔*	CHAE, Sihun*					
笠原 博徳 研究室	https://www.kasahara.cs.waseda.ac.jp/index.html.ja					
油片 愛翔	郷田 温人	松 千颯希	青木 幸至			
UDAWATTA, Lahiru sanmith						
木村 啓二 研究室	http://www.apal.cs.waseda.ac.jp/kimura/index.html.ja					
上林 嶺 顧	茗瑞	小久保瑠夏	二木 悠馬	佐藤 義亮		
酒井 哲也 研究室	http://sakailab.com/					
小林 正伸	平 理沙	柴田 大暉*	根岸 卓也*	周 世浩*		
田畑堅太郎*						

- 佐古 和恵 研究室 <https://sako-lab.jp/ja>
 草間 暁 吉田 敦 中村 友哉 細見 宗五 菅井 翼
 小林 駿斗* 吉田 尚央*
- 清水 佳奈 研究室 <https://www.cbio.cs.waseda.ac.jp/>
 會澤 大智 岡本 美優 小暮 美佳 崎田匠太郎 宮崎 明澄
 渡部 健太
- 菅原 俊治 研究室 <https://www.sugawara.org/jp/>
 鳥谷部幸夫 石野 博己 瀬戸屋駿斗 田和 彩夏 小畑 瑞貴*
- 田中 久美子 研究室 <https://ml-waseda.jp/>
 リ シイク 富田 悠介 萩原 麗生 八木 蓮 池田 大斗*
 島林 薫*
- 寺内 多智弘 研究室 <https://terauchi.w.waseda.jp/index-j.html>
 伊藤 瑠玖 石山 温大 尾田 莉瑠
- 中島 達夫 研究室 <http://www.dcl.cs.waseda.ac.jp/>
 後藤 優太 山本さやか 内藤 光志 小田倉 遥 藤田 早紀
 松浦 礼奈
- 山名 早人 研究室 <https://www.yama.info.waseda.ac.jp/ja/research>
 久野 真理 村上 堯良 宮本 遼人 高橋なずな 新谷 大起*
 小野 聡*
- 鷲崎 弘宜・鶴林 尚靖 研究室 <http://www.washi.cs.waseda.ac.jp/>
 棚橋 涼子 芹澤 祥吾 左 心 平林 真衣 福島 惇聖
 安藤 尚城*
- シモセラ・エドガー 研究室 <https://esslab.jp>
 井上 勇希 岡部 大輝 小林真生子 野田 紫苑 東野 遥輝
 脇田 知樹

〈情報通信学科・情報理工学科*〉

- 小川 哲司 研究室 <http://www.pcl.cs.waseda.ac.jp/>
 佐本 耀哉 小島 啓吾 佐藤丈一郎 谷口 純 山本 竜輔
 坂爪 匠 落合 伸晃 磯部菜花子*
- 笠井 裕之 研究室 <http://kasai.comm.waseda.ac.jp/kasai/>
 小林 亮太 白藤 龍成
- 甲藤 二郎 研究室 <https://www.katto.comm.waseda.ac.jp>
 辻井 若葉 石井 寛大 森 孔貴 内芝 謙允 柳川 健太*
 橋本 夕輝*

亀山 渉 研究室	http://www.km.comm.waseda.ac.jp				
曾根 朝陽	木村 佑基	池上 守	浜 潤太	幡谷 健斗	
河原 大輔 研究室	https://www.nlp-waseda.jp				
藤田 一颯	五十里 渚	柚谷 星音	青木 洸士郎*	張 齡方*	
源 怜維*	中尾 圭佑*				
小林 哲則 研究室	http://www.pcl.cs.waseda.ac.jp/				
井口 皓介	SHENG CHENG	安富 堅	山田 裕介	星野 瑞貴	
戸川 望 研究室	http://www.togawa.cs.waseda.ac.jp/				
浅井 一孝	川村 竜太	高橋 俊介	田中 綺珠	富田 柊	
齋藤 善仁*					
中里 秀則 研究室	https://www.nz.comm.waseda.ac.jp				
岩田凌太郎	宮下 隼	正木 啓太	鈴木 康之	村松 大地*	
坂田 稔介*					
前原 文明 研究室	https://sem-maehara.w.waseda.jp/				
新井 祥	岸野 大陸	齋藤 陽向	竹中 愛音	守田ゆり爽	
森 達哉 研究室	https://nsl.cs.waseda.ac.jp/				
末次 響	犬塚 祥	山崎 惣大	高原祥二郎	中里 悦矢*	
森田 逸郎 研究室	https://morita.w.waseda.jp/				
中澤 佳希	高坂 優佑	西崎 晶紀	小島 弘郁	花尻万里子	
渡辺 裕 研究室	https://www.ams.giti.waseda.ac.jp/				
小川 英人	岸本 泰生	坂田 真乙	中村 悠大	宮田 萌芳*	

〈電子物理システム学科〉

内野 瞬 研究室	https://www.uchino-lab.sci.waseda.ac.jp				
堤 海	伊藤 暢浩	柴田 一滉	植田 啓太		
川西 哲也 研究室	https://kawanishi.w.waseda.jp/				
安間 佑太	今井 修司	奥間 梨彩	恩田 葉奈	中澤 宏太	
宗田 明紘					
小西 毅 研究室					
浅田 莉央	新井 大悟	小野 智矢	坂本 壮太	村中 愛理	
山本 晏聖					
史 又華 研究室	http://www.islab.cs.waseda.ac.jp/wp/				
興野 笑理	辻本 啓能	早川 尚希	兵頭 千春	山崎 観	

乗松 航 研究室	https://www.nano.sci.waseda.ac.jp/					
奥泉 拓真	横瀬 光希	玉城 伶	有田 廣生			
谷井 孝至 研究室	http://www.tanii.nano.waseda.ac.jp/					
安徳慶太郎	菊地 祐希	林 啓瑚	東村 健汰	毛利 大翔		
山田 匠海						
森本 雄矢 研究室	https://www.biomems.sci.waseda.ac.jp/					
澤田光士郎	内田 涼介	柏崎 光音	佐藤 有翼	西條 柊		
柴田 洸志	喜連 祐大					
山本 知之 研究室	https://www.cms.sci.waseda.ac.jp/index.html					
琴 東珉	加藤 優太	安達 速人	大坪 真心	齋藤 彩夢		
佐古 七海	笹川 昌暉	中本 誠也	野口 一紀			
渡邊 孝信 研究室	https://www.watanabe-lab.jp/					
奥田耕太郎	小島 公人	小山 晴隆	高山 開智	野村 拓樹		
山本 宙	渡邊 開					
川村 一志 研究室	※ホームページ準備中					
石田 楓果	伊藤 大悟	川上 慶翔	宮田 凌吾			

訂 正

2025年度学部卒業生一覧に脱落がございましたので、下記のとおり訂正させていただきます。
ご迷惑をおかけしましたことをお詫び申し上げます。

【追加】

〈電子物理システム学科〉

出浦 桃子 研究室	https://www.crystal.sci.waseda.ac.jp/					
大村 陸	鹿野 義人	堺 悠真	西川 慶祐	野邊淳之介		
服部 翔						

以上

2025年度博士号取得者一覧

()内は指導教員

《電気・情報生命専攻》

- | | |
|---------------|--|
| 佐藤 英太 (近藤圭一郎) | 鉄道用ワイヤレス給電システムにおける低スイッチング周波数・高ゲイン領域の車上側電力変換器制御に関する研究 |
| 丹野祐次郎 (林 泰弘) | 電力系統の混雑解消を目的とした感度分析とクラスタリングに基づく再エネ電源および系統用蓄電池の出力制御に関する研究 |

《情報理工・情報通信専攻》

- | | |
|--------------------------|---|
| 西城 耕平 (小川 哲司) | Unified Audio Source Separation |
| LUO Ao (甲藤 二郎) | Learned Visual Data Compression on Coding Efficiency and Lightweight Model |
| ZHANG Ziyang (シモセラ・エドガー) | Foundations and Applications of Neural Global Illumination Baking |
| 田中 恒彦 (シモセラ・エドガー) | Towards Agent-in-the-Loop Interactive Game Design and Evaluation |
| 大野乾太郎 (戸川 望) | Toward Practical Application of Ising Machines to Combinatorial Optimization |
| 野本 一輝 (森 達哉) | Security and Privacy Impacts of Gaps between Implementation, Operation, and Use of Systems: An Empirical Analysis |

《電子物理システム学専攻》

- | | |
|---------------|------------------------------------|
| 太田 康介 (出浦 桃子) | 縦型ダイヤモンドMOSFETの電流－電圧および高周波特性に関する研究 |
|---------------|------------------------------------|

《先進理工学専攻》

- | | |
|--------------|---|
| 志熊 亮佑 (林 泰弘) | Studies on Assessment Methods for Short-Term Frequency Stability in Power Systems with Grid-Forming Inverters |
|--------------|---|

<受賞・褒章>

お知らせのあったものを掲載しています。(受賞時の学年を表記)

順不同

早稲田大学名誉教授 松山泰男	2025年 秋の叙勲 瑞宝中綬章
早稲田大学名誉教授 高畑文雄	2025年度高柳健次郎賞
株式会社KDDI総合研究所 内藤整	2025年度高柳健次郎業績賞
東京大学先端科学技術研究センター 車一宏	高柳健次郎財団 2025年度研究奨励賞
電気・情報生命工学科 准教授 和佐泰明	計測自動制御学会 制御部門バイオニア賞
電気・情報生命専攻 林研究室 D2 丹野祐次郎	IEEE IEEE PES Japan Joint Chapter Student Best Paper Award
電気・情報生命工学科 和佐研究室 M1 加藤波輝	計測自動制御学会 制御部門奨励賞 (基礎分野)
電気・情報生命専攻 若尾研究室 D1 岸正寛	電気学会 優秀論文発表賞
電気・情報生命専攻 若尾研究室 M1 秋山航	日本太陽エネルギー学会 谷辰夫奨励賞
電気・情報生命専攻 若尾研究室 M1 鈴木雅之	日本太陽エネルギー学会 奨励賞 (学生部門)
電気・情報生命工学科 古谷研究室 B3 米愛永	日本原子力学会関東甲越支部学生研究発表会 奨励賞
電気・情報生命専攻 林研究室 D3 杉村修平	IEEE Transactions on Electrical and Electronic Engineering Top Viewed Article
電気・情報生命専攻 林研究室 D2 奥野竜希	IEEE Transactions on Electrical and Electronic Engineering Top Viewed Article
電気・情報生命専攻 岡野研究室 M1 細野翔大	量子生命科学会 Best Poster Presentation Award
電気・情報生命工学科 教授 坂内博子	日本生物物理学会 Biophysics and Physicobiology Editors' Choice Award
電気・情報生命工学科 教授 近藤圭一郎	一般社団法人電気学会 電気学術振興賞 論文賞
電気・情報生命工学科 坂内研究室 講師 櫻木繁雄	日本生物物理学会 Biophysics and Physicobiology Editors' Choice Award
電気・情報生命工学科 坂内研究室 助教 高橋俊樹	日本生物物理学会 Biophysics and Physicobiology Editors' Choice Award
電気・情報生命工学科 坂内研究室 助手 趙伯驍	日本生物物理学会 Biophysics and Physicobiology Editors' Choice Award
電気・情報生命工学科 坂内研究室 D1 内田智也	日本生物物理学会 Biophysics and Physicobiology Editors' Choice Award

電気・情報生命工学科 D1 加藤尚己	坂内研究室	日本生物物理学会 Biophysics and Physicobiology Editors' Choice Award
電気・情報生命工学科 准教授 和佐泰明		計測自動制御学会 計測自動制御学会 学会賞（論文賞）
電気・情報生命専攻 M2 佐藤江理名	林研究室	電気学会 電子・情報システム部門大会 優秀ポスター賞
電気・情報生命専攻 M1 松本英倫	浜田研究室	バイオ情報学研究会 プレゼンテーション賞
電気・情報生命工学科 B4 王澤平	坂内研究室	認知症学会若手の会 最優秀プレゼンテーション賞
電気・情報生命専攻 D3 横山源太郎	浜田研究室	2025年日本バイオインフォマティクス学会年会 第13回生命医薬情報学連合大会 大会長（認定試験チャレンジ）賞
電気・情報生命専攻 D3 武田淳志	浜田研究室	生命情報科学若手の会第17回年会 CyberomiX Best Poster Award
電気・情報生命専攻 D3 武田淳志	浜田研究室	生命情報科学若手の会第17回年会 Best NGS Award
電気・情報生命専攻 M2 中野はるか	林研究室	令和7年電気学会電力・エネルギー部門大会 YPC奨励賞
電気・情報生命専攻 M2 進士聖夫	林研究室	令和7年電気学会電力・エネルギー部門大会 YPC優秀発表賞
電気・情報生命専攻 M1 岡本光一郎	林研究室	令和7年電気学会電力・エネルギー部門大会 YPC奨励賞
電気・情報生命工学科 B4 石坂匡基	林研究室	令和7年電気学会電力・エネルギー部門大会 YPC（Young engineer Poster Competition）奨励賞
電気・情報生命工学科 B4 鳥海貴正	林研究室	令和7年 電力・エネルギー部門大会 YPC優秀発表賞
電気・情報生命工学科 B4 奥山詩英莉	林研究室	電気学会電力・エネルギー部門大会 YPC優秀発表賞
電気・情報生命工学科 B4 鎌田和夫	林研究室	電気学会電力・エネルギー部門 YPC優秀発表賞
電気・情報生命工学科 B4 齊藤慎人	林研究室	令和7年電気学会電力・エネルギー部門大会 YPC奨励賞
電気・情報生命専攻 M1 細野翔大	岡野研究室	第25回日本光生物学協会年会 優秀ポスター賞
電気・情報生命工学科 B4 米愛永	古谷研究室	日本原子力学会2025年秋の大会 学生ポスターセッション奨励賞
電気・情報生命工学科 B4 窪田総介	坂内研究室	脳科学若手の会 最優秀発表賞
電気・情報生命専攻 助手 荒川真歩	岩崎研究室	第32回日本時間生物学学会 優秀演題賞
電気・情報生命専攻 M1 菊田恭平	浜田研究室	第9回 Tokyo Bioinformatics Meeting 最優秀発表賞
電気・情報生命工学科 B4 大附綾也	浜田研究室	Tokyo Bioinformatics Meeting 第9回研究会 ロングトーク優秀賞
電気・情報生命専攻 M2 渡邊崇史	林研究室	令和7年電気学会全国大会 優秀論文発表賞

情報理工・情報通信専攻 M2 原島夏希	戸川研究室	情報処理学会 高度交通システムとスマートコミュニティ研究会 (ITS) 優秀論文賞
情報理工・情報通信専攻 M2 野口竜弥	戸川研究室	情報処理学会 高度交通システムとスマートコミュニティ研究会 (ITS) 奨励発表賞
情報理工・情報通信専攻 M2 岩田錦哉	戸川研究室	デザインガイヤ SLDM優秀発表賞
情報理工・情報通信専攻 M2 富田空	戸川研究室	デザインガイヤ SLDM優秀発表賞
情報理工・情報通信専攻 M2 田久健人	上田研究室	The 27th International Symposium on Practical Aspects of Declarative Languages (PADL 2025) Best Student Paper Honorable Mention Award
情報理工・情報通信専攻 M2 進藤高紘	渡辺研究室	画像符号化シンポジウム ベストポスター賞
情報理工・情報通信専攻 M2 JiaqianXIE	亀山研究室	2024 IEEE 13th Global Conference on Consumer Electronics (GCCE 2024) GCCE 2024 Presentation Award
情報通信学科 渡辺研究室 B4 巽優衣		IEEE Global Conference on Consumer Electronics Presentation Award
情報理工・情報通信専攻 M2 廣瀬翔太	甲藤研究室	画像符号化シンポジウム ベストポスター賞
情報理工・情報通信専攻 M1 杉本遼太	甲藤研究室	IEEE ICCE 2025 Best Regional Paper Award
情報理工・情報通信専攻 M1 太田岳	戸川研究室	The 2025 IEEE International Conference on Consumer Electronics (ICCE2025) Best Session Presentation Award
情報理工学科 戸川研究室 B4 三田光希		The 2025 IEEE International Conference on Consumer Electronics (ICCE2025) Best Session Presentation Award
情報通信学科 甲藤研究室 B4 中島瑛子		画像符号化シンポジウム ベストポスター賞
情報理工・情報通信専攻 D1 YijunLu	鷲崎・鶴林研究室	スマートエスイー強化学習・制御入門 (DeepRacer実習) 第2位
情報理工・情報通信専攻 M2 飯野景	渡辺研究室	電子情報通信学会 学術奨励賞
情報理工・情報通信専攻 M2 田中雄翔	佐古研究室	DIF Hackathon 2024 Ontologyスポンサー部門準優勝
情報理工・情報通信専攻 M2 渡邊健	佐古研究室	DIF Hackathon 2024 Ontologyスポンサー部門準優勝
情報理工・情報通信専攻 M2 木村悠人	佐古研究室	DIF Hackathon 2024 Ontologyスポンサー部門準優勝
情報理工・情報通信専攻 M1 水野重弦	佐古研究室	DIF Hackathon 2024 Ontologyスポンサー部門準優勝
情報理工・情報通信専攻 M1 大塚巧巳	佐古研究室	DIF Hackathon 2024 Ontologyスポンサー部門準優勝
情報理工・情報通信専攻 M1 森田航平	佐古研究室	DIF Hackathon 2024 Ontologyスポンサー部門準優勝
情報理工学科 佐古研究室 B4 横井岳登		DIF Hackathon 2024 Ontologyスポンサー部門準優勝
CSCE Major 佐古研究室 B3 大山春樹		DIF Hackathon 2024 Ontologyスポンサー部門準優勝

情報理工学科 教授 寺内多智弘		第27回プログラミングおよびプログラミング言語ワークショップ (PPL 2025) 論文賞
情報理工・情報通信専攻 M2 藤井野枝子	酒井研究室	DEIM2025 学生プレゼンテーション賞
情報理工・情報通信専攻 M2 遠藤龍之介	寺内研究室	第27回プログラミングおよびプログラミング言語ワークショップ (PPL 2025) 論文賞
情報理工学科 B5 袁欣綺	山名研究室	DEIM2025 第17回 データ工学と情報マネジメントに関するフォーラム 学生プレゼンテーション賞
情報理工学科 B4 高萩倭音	菅原研究室	Symposium on Multi-Agent Systems for Harmonization2025 IEEE Computer Society Japan Chapter SMASH Young Researcher Award
情報理工学科 B4 古垣遵之	山名研究室	DEIM2025 第17回 データ工学と情報マネジメントに関するフォーラム 学生プレゼンテーション賞
情報通信学科 B4 杉山亮太	鷺崎・鶴林研究室	情報処理学会ソフトウェア工学研究会 学生研究賞
情報理工学科 教授 上田和紀		日本ソフトウェア科学会 名誉会員
情報理工学科 教授 鷺崎弘宣		情報処理学会 研究会活動貢献賞
情報理工・情報通信専攻 D1 李聖哲	河原研究室	情報処理学会 自然言語処理研究会 優秀研究賞
情報理工・情報通信専攻 M2 大倉優輝	内田研究室	一般社団法人情報処理学会 学生奨励賞
情報理工・情報通信専攻 M2 JiaqianXie	亀山研究室	電子情報通信学会 画像工学研究会 IE賞
情報理工・情報通信専攻 M1 SebastianZwirner	河原研究室	言語処理学会第31回年次大会 若手奨励賞
情報理工・情報通信専攻 M1 笹川慶人	河原研究室	言語処理学会第31回年次大会 委員特別賞
情報理工学科 B4 紺野匠宏	内田研究室	一般社団法人情報処理学会 学生奨励賞
情報理工学科 B4 福永大	内田研究室	一般社団法人情報処理学会 学生奨励賞
情報理工学科 B3 青木洸士郎	河原研究室	言語処理学会第31回年次大会 博報堂テクノロジーズ賞
情報通信学科 教授 森達哉		文部科学省 令和7年度科学技術分野の文部科学大臣表彰（研究部門）
情報理工・情報通信専攻 D3 野本一輝	森研究室	電子情報通信学会 情報通信システムセキュリティ研究会 2024年度情報通信システムセキュリティ研究賞
情報理工・情報通信専攻 D1 久保佑介	森研究室	電子情報通信学会 情報通信システムセキュリティ研究会（ICSS研究会） 2024年度情報通信システムセキュリティ研究賞
情報理工・情報通信専攻 M2 若井琢朗	森研究室	電子情報通信学会 情報通信システムセキュリティ研究会 2024年度情報通信システムセキュリティ研究賞
情報理工・情報通信専攻 M2 鶴岡豪	森研究室	電子情報通信学会 情報通信システムセキュリティ研究会 2024年度情報通信システムセキュリティ研究賞

情報通信学科 教授 中里秀則		電子情報通信学会 Best Tutorial Paper Award
情報理工・情報通信専攻 D2 杉山孔亮	内田研究室	一般社団法人 情報処理学会 第87回全国大会 大会奨励賞
情報理工・情報通信専攻 M2 清水駿太	石川研究室	IEEE CT East Joint Japan Chapter ICCE Young Scientist Paper Award
情報理工・情報通信専攻 M2 益田裕也	石川研究室	IEEE CT East Joint Japan Chapter ICCE Young Scientist Paper Award
情報通信学科 教授 中里秀則		一般社団法人情報通信技術委員会 (TTC) 功労賞
情報理工・情報通信専攻 M2 杉本遼太	甲藤研究室	電子情報通信学会 画像工学研究会 IE賞
情報理工学科 教授 田中久美子		The 63rd Annual Meeting of the Association for Computational Linguistics Outstanding Paper Award
情報理工学科 教授 寺内多智弘		日本ソフトウェア科学会 研究論文賞
情報通信学科 教授 森達哉		ACM ASIACCS 2025 Best Paper Award
情報通信学科 教授 森達哉		VehicleSec '25 Best Poster Award
情報理工・情報通信専攻 D3 野本一輝	森研究室	ACM ASIACCS 2025 Best Paper Award
情報理工・情報通信専攻 D1 李聖哲	河原研究室	情報処理学会 山下記念研究賞
情報理工・情報通信専攻 D1 鶴岡豪	森研究室	VehicleSec '25 Best Poster Award
情報理工・情報通信専攻 M2 岩田錦哉	戸川研究室	デザインガイア2024 優秀発表賞
情報理工・情報通信専攻 M2 富田空	戸川研究室	デザインガイア2024 優秀発表賞
情報理工・情報通信専攻 M1 岡村陸希	菅原研究室	2025 International Conference on Intelligent Data Science Technologies and Applications Best paper award
情報理工・情報通信専攻 卒業生 藤井野枝子	酒井研究室	情報処理学会 山下記念研究賞
情報理工学科 教授 寺内多智弘		情報処理学会ソフトウェア工学研究会 卓越研究賞
情報理工学科 教授 鷺崎弘宜		ソフトウェアエンジニアリングシンポジウム2025 研究奨励賞
情報理工学科 教授 鷺崎弘宜		ソフトウェアエンジニアリングシンポジウム2025 企業・ポスター賞
情報理工学科 教授 鷺崎弘宜		ソフトウェアエンジニアリングシンポジウム2025 Best International Poster Award
国際理工学センター 教授 鶴林尚靖		ソフトウェアエンジニアリングシンポジウム2025 研究奨励賞
国際理工学センター 教授 鶴林尚靖		ソフトウェアエンジニアリングシンポジウム2025 企業・ポスター賞

国際理工学センター 教授 鷗林尚靖	ソフトウェアエンジニアリングシンポジウム2025 Best International Poster Award
情報理工・情報通信専攻 河原研究室 D2 李聖哲	情報処理学会 自然言語処理研究会 第265回研究発表会 優秀研究賞
情報理工・情報通信専攻 鷗崎・鷗林研究室 D1 稲川拓	ソフトウェアエンジニアリングシンポジウム2025 企業・ポスター賞
情報理工・情報通信専攻 鷗崎・鷗林研究室 D1 WeitaPan	ソフトウェアエンジニアリングシンポジウム2025 Best International Poster Award
情報理工・情報通信専攻 鷗崎・鷗林研究室 M2 土田拓将	ソフトウェアエンジニアリングシンポジウム2025 研究奨励賞
情報理工・情報通信専攻 鷗崎・鷗林研究室 M2 森俊介	ソフトウェアエンジニアリングシンポジウム2025 企業・ポスター賞
情報理工・情報通信専攻 前原研究室 M2 小林龍馬	IEEE VTS Tokyo/Japan Chapter VTC2025-Fall Young Researcher's Encouragement Award
情報理工・情報通信専攻 河原研究室 M1 小川隼斗	第20回言語処理若手シンポジウム 奨励賞
情報理工・情報通信専攻 山名研究室 M1 袁欣綺	2025 the 17th International Conference on Education Technology and Computers (ICETC) Best Presentation Award
情報理工・情報通信専攻 鷗崎・鷗林研究室 M1 藤原雄矢	ソフトウェアエンジニアリングシンポジウム2025 研究奨励賞
情報理工・情報通信専攻 鷗崎・鷗林研究室 M1 西尾光平	ソフトウェアエンジニアリングシンポジウム2025 企業・ポスター賞
情報理工学科 河原研究室 B4 青木洸士郎	第20回言語処理若手シンポジウム 奨励賞
情報理工学科 河原研究室 B4 源怜維	第20回言語処理若手シンポジウム 株式会社レトリバ賞
国際理工学センター 教授 鷗林尚靖	情報処理学会 コンピュータサイエンス領域功績賞
情報理工・情報通信専攻 内田研究室 D2 杉山孔亮	JST ASPIRE 機械学習若手の会 (YAML) 2025 優秀ポスター発表賞
情報理工・情報通信専攻 森研究室 D2 渡邊龍星	情報処理学会 コンピュータセキュリティシンポジウム2025 優秀論文賞
情報理工・情報通信専攻 森研究室 D1 鶴岡豪	情報処理学会 コンピュータセキュリティシンポジウム2025 優秀論文賞
情報理工・情報通信専攻 森研究室 D1 MooreLachlanWallace	情報処理学会 コンピュータセキュリティシンポジウム2025 学生論文賞
情報理工・情報通信専攻 森研究室 D1 久保佑介	情報処理学会 コンピュータセキュリティシンポジウム2025 奨励賞
情報理工・情報通信専攻 森研究室 M2 戸田宇亮	情報処理学会 コンピュータセキュリティシンポジウム2025 優秀論文賞
情報理工・情報通信専攻 森研究室 M1 海老根佑雅	情報処理学会 コンピュータセキュリティシンポジウム2025 学生論文賞
情報理工・情報通信専攻 河原研究室 M1 佐々木斗海	2025年度 人工知能学会 全国大会 (第39回) 優秀賞
情報理工学科 木村研究室 B4 SATOYoshiaki	The 23rd IEEE International Conference on Dependable, Autonomic and Secure Computing IEEE Best Poster Award

情報理工学科 教授 鷺崎弘宜		IEEE EAB Society/Council Professional Development Award
情報理工・情報通信専攻 D1 呉怡萱	佐古研究室	ETH Tokyoハッカソン Counterculture Capital部門3位
情報理工・情報通信専攻 M2 館知哉	内田研究室	電子情報通信学会 情報論の学習理論と機械学習研究会 第28回情報論の学習理論ワークショップ (IBIS2025) 学生優秀プレゼンテーション賞ファイナリスト
情報理工・情報通信専攻 M1 横井岳登	佐古研究室	ETH Tokyoのハッカソン Counterculture Capital部門 3 位
情報理工・情報通信専攻 M1 後藤真成	佐古研究室	ETH Tokyoハッカソン Counterculture Capital部門 3 位
情報理工・情報通信専攻 M1 丸山俊平	佐古研究室	ETH Tokyoハッカソン Counterculture Capital部門 3 位
情報理工・情報通信専攻 M1 藤井孝輔	佐古研究室	ETH Tokyoハッカソン Counterculture Capital部門 3 位
情報理工・情報通信専攻 M1 三富友貴	佐古研究室	ETH Tokyoハッカソン Counterculture Capital部門 3 位
情報理工学科 教授 鷺崎弘宜		AI-Driven Software Engineering Summit 2025 Best Poster Award
国際理工学センター 教授 鷗林尚靖		AI-Driven Software Engineering Summit 2025 Best Poster Award
情報理工・情報通信専攻 D1 WeitaoPAN	鷺崎・鷗林研究室	AI-Driven Software Engineering Summit 2025 Best Poster Award
情報理工・情報通信専攻 D1 WeitaoPAN	鷺崎・鷗林研究室	Global Information and Telecommunication Workshop (GITW) 2025 Best Presentation Award
情報理工・情報通信専攻 M2 ZiyueZeng	渡辺研究室	IEEE Consumer Technolgy Society Oral Presentation Award
情報理工・情報通信専攻 M2 FumikaHOSHI	鷺崎・鷗林研究室	AI-Driven Software Engineering Summit 2025 Best Poster Award
情報理工・情報通信専攻 M1 巽優衣	渡辺研究室	IEEE Consumer Technolgy Society Oral Presentation Award
早稲田大学 名誉教授 川原田洋		大隈学術記念賞
電子物理システム学科 B4 稲本陽向	森本研究室	第10回サイボウニクス研究会 優秀研究・オーディエンス賞 (ポスター発表)
電子物理システム学科 B4 原信田龍一	森本研究室	第10回サイボウニクス研究会 優秀研究・オーディエンス賞 (口頭発表)
電子物理システム学科 B4 浅野涼葉	森本研究室	第10回サイボウニクス研究会 優秀研究・発表賞
電子物理システム学科 講師 田中大器		文部科学省 マテリアル先端リサーチインフラ 技術支援貢献賞
電子物理システム学専攻 D1 柿元健佑	内野研究室	アトムの会 学生優秀発表賞
材料科学専攻 D1 鯉川智生	山本研究室	日本セラミックス協会 第38回秋季シンポジウム優秀発表賞
電子物理システム学専攻 M2 島本寛太	森本研究室	第11回サイボウニクス研究会 優秀研究・オーディエンス賞

電子物理システム学科 森本研究室 B4 内田涼介	第11回サイボウニクス研究会 優秀研究・発表賞
材料科学専攻 山本知之研究室 D1 鯉川智生	8th International Symposium on Frontiers in Materials Science : Oral Presentation Award for Young Scholar
電子物理システム学専攻 森本研究室 M1 浅野涼葉	日本機械学会2025年度年次大会 若手優秀講演表彰

2025年度就職状況

2025年度卒業生と修了生の就職状況

電気・情報生命工学科／電気・情報生命専攻 就職指導担当 教授
岩崎 秀雄、井上 真郷、村田 昇



岩崎教授



井上教授



村田教授

電気・情報生命工学科および電気・情報生命専攻では、2025年度も例年どおり3名の就職担当教員が学生の就職活動の支援を行いました。大学などの代表で構成される就職問題懇談会の申し合わせによる今年度の就職活動のスケジュールは、昨年度から変更はなく、企業側は3月から採用活動（採用を前提とした学生との接触）を開始、6月に選考活動（採用面接）を開始として進められました。本学科・専攻でもこのスケジュールに合わせて、11月中旬に第1回就職ガイダンスを開催し、就職活動のスケジュール、就職活動を進める上での心構えや注意点、推薦制度の考え方などを説明しました。同時にWaseda Moodle（早稲田大学の教学支援システム）を通じて就職関連情報の公開も行いました。また2月下旬には学科推薦を希望する学生を対象として第2回就職ガイダンスを開催し、推薦状発行に向けて本格的に支援活動を開始しました。学生全体に対するガイダンスはオンラインおよび対面のメリットを共に活かすべくハイブリッドで行い、その後の面談は基本的には対面で実施しました。50社を越える企業面談のうちで約7割が対面での実施となりました。採用活動は3月からとする就職問題懇談会の申し合

わせとは異なり、外資系企業、ベンチャー企業、マスコミ関連企業、中小企業はこれまでも前倒しのスケジュールで採用を行っていましたが、人材獲得の競争が激しくなっている情報サービス系企業などもこれに加わり、前倒しのスケジュールで採用を行う企業が増えている印象です。また、長期・短期のインターンシッ

ブも多数開催され、採用に直結しないとはいえ結果として就職に関連する学生の活動期間が長期化し、年々その負担は大きなものとなっているようです。

本年度の就職・進学状況の概要は以下のとおりです。2025年度卒業を目指して卒業研究に取り組んだ学部学生は125名、このうち91名が大学院進学に進み、引き続き研究を行う予定です。また大学院で修士論文に取り組んだ学生は107名ですが、修士課程を修了して就職予定の学生は103名です。本年度も本学科・専攻はおかげさまで多くの企業から求人を戴き、推薦依頼は207社、延べ500名を越える推薦枠を戴きました。企業の採用形態としては大きく分けると自由応募と推薦応募があり、年々その形態が多様化する中で自由応募による就職活動を選択する学生が増加する傾向にあるようですが、本年度は20名強の学生が推薦制度を利用しました。近年の卒業生・修了生の進路については本学科・専攻のウェブサイト (<https://www.eb.waseda.ac.jp/course/>) にまとめてあります。ご覧のように就職先は学部・大学院ともに情報サービス・メーカーから医療・バイオ・金融まで多岐に渡ります。この幅広い分野への就職は、電気・電子・情報工学の素養を持つ人材が、様々な業種のIT化や事業の多様化にともない依然として人気があること、また従来市場の成熟に伴い様々な企業が積極的に医療・生命科学分野へ進出していることなども後押ししていると考えられますが、多様な研究活動を行う本学科・専攻の一つの特徴となっています。

さて、皆様のお陰をもちまして、本年度も多くの学生が社会に旅立っていきます。就職する皆さんには、大学で得た知識・経験を存分に活かして新たな舞台で活躍されることを期待します。また今後は自身も卒業生として是非後輩達へ支援の手を差し延べて下さい。最後になりましたが、EWEの諸先輩の方々には、企業見学会や先輩との交流会などを通して学生にとって貴重な就職活動の機会を提供して戴いております。この場をお借りて御礼を申し上げます。今後とも引き続きご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。

2025年度基幹理工学部情報理工学科・情報通信学科と 基幹理工学研究科情報理工・情報通信専攻在籍学生の進路状況

情報理工学科・情報通信学科／情報理工・情報通信専攻 就職指導担当 教授

山名 早人、渡辺 裕、菅原 俊治



山名教授

2025年度に卒業論文着手を認められて研究室に在籍し卒業見込みの学部学生は179名（英語学位29名を含む）、うち本専攻修士課程への進学予定者126名（うち推薦101名、試験25名）、他大学大学院進学予定者12名（海外大学院3名を含む）、就職予定者31名、帰国予定者1名です。本専攻への進学率は70%となり、昨年度の65%から増加しました。



渡辺教授

修士課程については、修了見込みの大学院生は151名（英語学位32名を含む）、うち本専攻博士課程への進学予定者9名、他博士課程進学予定者1名、就職予定者129名、帰国予定者6名です。



菅原教授

就職活動は、就職問題懇談会の申し合わせに添い、会社説明会3月1日開始、選考開始6月1日開始での学校推薦をお願いします。日程に従うといっても、6月1日の選考開始は事務的に内々定の決定であり、事実上の選考はそれ以前に行われます。早い会社では3月初めからリクルータ等による選考が始まりました。なお、本学科・専攻には200社を超える企業から学校推薦依頼がありますが、学校推薦で就職をする学生は減り続け、本年度は全就職学生の9%（昨年度11%）に留まります。学校推薦での就職先（2名以上）はNTT研究所、NTTデータ、KDDIです。また、学校推薦自体を取り止め自由応募に統一する会社が増えてきております。学生の立場から見ますと「学校推薦による応募が原則として専願であり他

社へのエントリーが制限されることに加え、自由応募と異なり応募開始が3月1日以降となる」ことから、学校推薦を選ぶことをためらう学生が増加しつつあるようです。

一方、自由応募は、3月1日の会社説明会以前のインターンシップが就職活動の場になっています。学生は、学部3年あるいは修士課程1年の夏休みや2月の春休

みに数社のインターンシップを経験するのが一般的です。インターンシップ学生早期選考では12月～2月に内々定が出ています。さらに、いくつかの企業では、新卒一括採用から通年採用に移行し、やはり12月～2月に内々定を出しています。

本年度の自由応募の内々定は、11月～8月に分散しており、この期間に90%の学生が就職先を決定しています。ここ数年の特徴は、自由応募で内々定を得ても、引き続き別の会社に挑むという学生が増えているという点です。一旦自由応募で内々定を得たとしても、自身の能力を活かすことのできる他企業へチャレンジし続けるといった傾向が続いています。

本年度の就職先は93社（昨年度は95社）に分散しており、コンサルティング業、情報通信業、金融業、保険業、放送業など幅広い業種へと就職先が広がっています。こうした動きに伴い、メーカ各社への就職希望学生が減っております。特に優秀な学生ほど、自分の希望する職種で高額な年収を提示する企業へ就職する事例が多くなってきています。メーカ各社でも、2026年4月採用に対して大幅な初任給増を行う会社が増えていますが、必ずしも学生には伝わっていないように感じています。今の学生は、自身の能力を十分に発揮できる会社への就職を希望するか、安定志向が強くて終身雇用を希望するか、の大きく二つに分類できますが、会社の将来を見極めるのは学生にとって難しい課題です。

修士修了2名以上の就職先となる見込みの組織は、野村総合研究所、NTTデータ、アマゾンウェブサービス、アクセンチュア、日立製作所、PwCコンサルティング、NTT研究所、楽天、NTTドコモ、LINEヤフー、ソニー、日本IBM、KDDI、日本電気、電通、マネーフォワード、ウーブン・バイ・トヨタ、モルガン・スタンレー、HUAWEIであり、これら19社で修士修了の就職者の56%を占めます。また学部卒2名以上の就職先となる見込みの企業は、野村総合研究所、NTTデータ、アクセンチュア、FPTジャパンホールディングスです。

修士課程から本専攻博士課程への進学は9名（日本語学位5名、英語学位4名）に加えて修士1年生からの飛び級による進学者が若干名です。

本年度の就職状況を総括しますと、昨年度に引き続き、上昇志向を志向する学生と安定志向を志向する学生との間で、進路選択に顕著な差が見られます。本学科・専攻において就職担当として特に懸念しているのは、特定の企業への志望が一層集中する傾向が強まっている点です。学生には、自身の将来を見据え、学部の早い段階から企業研究に取り組み、より広い視野をもって進路を検討してほしいと考えています。

2025年度 電子物理システム学科・専攻、 ナノ理工学専攻（電子物理システム系）の就職活動報告

電子物理システム学科／電子物理システム学専攻 就職指導担当 准教授 森本 雄矢



森本 准教授

2024年度から引き続き、2025年度も電子物理システム学科・電子物理システム学専攻の就職指導を担当させていただきました。本年度も例年同様、多くの企業から厚い関心をお寄せいただき、300社弱から求人票をご提供いただきました。いわゆる電気系メーカ・半導体関連企業にとどまらず、情報系、自動車、建設など電気系以外の分野を主とする企業からも当学科・専攻への高い関心が寄せられており、電子物理を基盤とする専門技術へのニーズの広がりを感じております。2025年度の就職活動は、大きな混乱もなく順調に進めることができました。これまで継続的に学生をご支援くださっている企業関係者の皆様に深く御礼申し上げます。また、本年度も強力なサポートをいただいた連絡事務室の男谷様にも、心より感謝申し上げます。来年度も変わらぬご協力をお願い申し上げます。今年度、私が担当した就職活動対象の学生は、学部生16名、修士学生40名でした。入社先企業名と人数の詳細は文末にまとめております。これらの学生は当学科・専攻の第14期生にあたり、創設から現在に至るまでの14年間でおよそ980名の学生が約340社へと巣立っていったこととなります。今後も学生たちが社会で能力を最大限に発揮できるよう、企業の皆様には引き続き温かいご支援を賜れますと幸いです。

就職が決まった学生の皆さんには、在学中に培った知識や経験を存分に生かし、大きく成長されることを期待しています。企業では時間管理や成果の責任が学生時代とは異なる形で求められるため、戸惑う場面もあるかもしれません。しかし、物理を基盤とする深い理解と、エレクトロニクス・フォトニクス・情報システム・材料など多岐にわたる分野を柔軟に学び取った皆さんであれば、必ず活躍できると確信しております。ぜひ自信を持って挑戦してください。そして、

EWEの活動への参加を通じて、後輩のサポートにも力を貸していただければ嬉しく思います。皆さんが先輩方の話から多くを学んだように、後輩も皆さんの経験を聞きたいと願っています。今後も学科・専攻とのつながりを大切にいただければ幸いです。

就職指導を担当するようになり、EWEの皆様をはじめ、本学OB／OGによる支援の厚さを改めて感じています。先輩方の活動が学生たちの糧となり、社会へ羽ばたく力となっている様子を目にし、このネットワークの強さは学科・専攻だけでなく本学にとってもかけがえのない財産であると実感いたしました。多方面でご尽力くださったEWEの先輩方に深く感謝申し上げますとともに、今後とも引き続きご支援をいただければ幸いです。

今年度をもって私は就職指導担当を離れ、史教授へ引き継がせていただきました。電子物理システム学科・専攻を深くご理解いただいている史先生であれば、今後も安定して就職指導を進めていただけるものと確信しております。今後ともどうぞよろしく願いいたします。

3名ずつが入社する企業：

三菱電機、PwCコンサルティング合同会社

2名ずつが入社する企業：

KDDI、日本IBM、NTTデータ、東京都庁、村田製作所

1名ずつが入社する企業：

アストモスエネルギー、アビームコンサルティング、Amazon Japan、イトーキ、NECプラットフォームズ、NTTデータ経営研究所、関東学院中高、ギフトホールディングス、キヤノンマーケティングジャパン、クオーレテック、Sky、スターツ出版、住友電気工業、ディー・エヌ・エー、TMEIC、テルモ、東亜電気工業、東京エレクトロン、東京電力、東芝デバイス&ストレージ、TOPPAN、日本航空、日本総合研究所、日本タタ・コンサルタンシー・サービシズ、日本テレビ放送網、日本電子、農林中央金庫、野村総合研究所、日立ソリューションズ、日立製作所、富士フイルム、マイクロンメモリジャパン、丸紅、みずほ銀行、みずほりサーチ&テクノロジーズ、三井住友カード、三菱商事、三菱マテリアル、レイヤーズ・コンサルティング、自営業

2025年度 評議員委嘱状況

卒年	学部・学科	氏名	卒年	学部・学科	氏名
1972	理工学部 電気通信学科	小川 豊	1989	理工学部 電気工学科	林 泰弘
1973	理工学部 電気工学科	斎藤 涼夫	1989	理工学部 電子通信学科	河野 志行
1973	理工学部 電気通信学科	武藤 信夫	1990	理工学部 電気工学科	田中 貞嗣
1974	理工学部 電気工学科	島田健夫三	1991	理工学部 電子通信学科	水野 裕識
1974	理工学部 電気通信学科	花澤 隆	1992	理工学部 電気工学科	江口 弘
1975	理工学部 電気工学科	佐藤 勝雄	1995	理工学部 電気工学科	春山 智
1975	理工学部 電気通信学科	酒井 富夫	1995	理工学部 電子通信学科	山田 智紀
1976	理工学部 電気工学科	中谷 義昭	1996	理工学部 情報学科	村山 和宏
1976	理工学部 電気通信学科	宇高 勝之	1997	理工学部 電子通信学科	菊地 俊介
1978	理工学部 電子通信学科	北野 昌宏	1997	理工学部 情報学科	笈 一彦
1980	理工学部 電気工学科	笠原 博徳	1998	理工学部 電気電子情報工学科	大井 祐子
1980	理工学部 電子通信学科	宇田川重雄	1998	理工学部 電子・情報通信学科	茂垣 武文
1980	理工学部 電子通信学科	滝川 好比郎	1999	理工学部 電気電子情報工学科	勝田 喬雄
1982	理工学部 電気工学科	齋藤 則生	2000	理工学部 電気電子情報工学科	田中 毅
1983	理工学部 電気工学科	小林 正和	2000	理工学部 電子・情報通信学科	宮澤 敏記
1983	理工学部 電子通信学科	秋葉 浩	2001	理工学部 電気電子情報工学科	伊藤 俊秀
1984	理工学部 電気工学科	宮部 潤	2002	理工学部 情報学科	堀井 洋
1985	理工学部 電気工学科	寺本 哲	2003	理工学部 情報学科	森 紘一郎
1985	理工学部 電子通信学科	中村 寛	2004	理工学部 電気電子情報工学科	深澤 知憲
1986	大学院電気工学専攻	原 洋	2008	理工学部 電気・情報生命工学科	夏井 正嗣
1987	理工学部 電気工学科	清水 恒夫	2010	理工学部 コンピュータ・ネットワーク工学科	安川 要平
1988	理工学部 電気工学科	工藤 真	2012	基幹理工学部 情報理工学科	赤坂 宏行

卒年	学部・学科	氏名
2012	基幹理工学部 電子光システム学科	松下明日香
2013	先進理工学部 電気・情報生命工学科	相場 貴之
2013	先進理工学部 電気・情報生命工学科	薄井 綾香
2013	基幹理工学部 情報理工学科	高橋 翔平
2014	先進理工学部 電気・情報生命工学科	葉山 へみ
2014	基幹理工学部 情報理工学科	丸小 倫己
2014	基幹理工学部 電子光システム学科	秋山 隼哉
2015	先進理工学部 電気・情報生命工学科	高橋 康太
2015	基幹理工学部 電子光システム学科	小出 隆太
2016	基幹理工学部 情報理工学科	飯嶋 直輝
2017	基幹理工学部 情報理工学科	金田 健吾
2017	基幹理工学部 電子物理システム学科	梶家 美貴
2018	先進理工学部 電気・情報生命工学科	田村 好

卒年	学部・学科	氏名
2018	基幹理工学部 情報理工学科	村田 憲俊
2018	基幹理工学部 電子物理システム学科	今西祥一朗
2019	先進理工学部 電気・情報生命工学科	平嶋 史典
2019	基幹理工学部 情報通信学科	田原 雅彦
2019	基幹理工学部 電子物理システム学科	藤本 宇郁
2020	基幹理工学部 情報通信学科	新田 光将
2022	先進理工学部 電気・情報生命工学科	古神子拓海
2022	基幹理工学部 情報理工学科	小野 結衣

*評議員不在の年次・学科は、募集しています。
また、評議員を交代された場合は、事務局までお知らせください。

*2023年5月の総会にて、高年齢の評議員（1971年卒以前の方）の定年制導入が決まりました。継続のご希望がある方は事務局までご連絡ください。

2025年度 終身会費納入者一覧

石川 徹	1960 電気	福田 博一	1973 電通	桐田 泰三	1975 電通
伊集院 正	1977 電気	西村 洋一	1977 電気	石山 敦士	1977 電気
綾川 博明	1978 電気	米原 明史	1978 電通	志村 国広	1980 電気
穂積 直裕	1981 電気	山本 道夫	1982 電気	浅利 真宏	1988 電気
木内 直人	1996 電気	二見 啓太	1997 電生	山口 高弘	2001 電情
丹下 智之	2006 電通	渡邊羽衣子	2015 電生	野田真美子	2015 電生
伊東清太郎	2018 電生	滝澤 諄弥	2020 電物	園田 尚宣	2020 情理
東島 稜	2022 電物	土肥口英泰	2024 電生		

寄付者一覧

中山 元泰	1952 電通	仲林 尚	1952 電気	加勢 幸三	1953 電気
竹内 伸一	1958 電気	伊藤 道彦	1960 電通	中川 幹雄	1961 電通
尾崎 肇	1962 電気	三田村真次	1962 電気	平澤 茂一	1963 電通
松本 勲夫	1967 電気	堀田 忠和	1968 電気	大木 義路	1973 電気
木田 博己	1976 電通	宮澤 良治	1976 電気	小川 恭弘	1979 電気
篠永 裕之	1980 電気	伊藤 雄康	1988 電通	島田 敏彦	1992 電気
國友 勝成	1992 電通	飯田 智之	2001 電通	佐藤 智仁	2010 電通
福意 大智	2014 情理	伊藤佑一郎	2020 電物	片山 和明	2020 電物

◇お悔やみ申し上げます。(2025年度にお知らせをいただいた方を掲載しております)

お名前	卒年	学科	ご逝去	お名前	卒年	学科	ご逝去
町野 陸彦	1949	電気	不明	当摩 健	1958	電気	2025年8月
野原 和夫	1951	電気	2024年6月	宮島孫三郎	1959	電通	2023年7月
宮崎 洋一	1952	電通	2024年8月	磯貝 力	1959	電気	2024年11月
石川日出男	1953	電通	2025年3月	南小栴 慧	1959	電気	2025年5月
山田順一郎	1953	電気	不明	三浦 純彦	1960	電気	2023年7月
長谷川隆昭	1953	電通	2025年4月	岡田 恒明	1961	電気	2023年10月
島田 好恵	1953	電気	2024年7月	江幡 篤士	1963	電通	2025年1月
宮入 正彦	1953	電気	2024年6月	福井 常忠	1964	電気	2025年5月
村雨龍之助	1954	電気	2025年1月	石川 宏	1965	電通	2025年8月
山口 顕	1954	電気	2023年5月	大野 正道	1965	電気	2024年12月
岩崎 一好	1955	電気	2021年2月	大久保 喬	1967	電気	2025年3月
坂本 隆一	1955	電気	2023年1月	真田 正	1968	電気	2025年8月
角田 秀夫	1956	電通	2022年9月	能勢 勇	1968	電通	2023年2月
佐藤 仁弘	1956	電気	2024年7月	太田 利雄	1970	電気	2023年7月
高田 友治	1956	電気	2025年3月	片岡 冬里	1970	電気	2025年9月
大塚 敬	1957	電気	2025年11月	板倉 誠一	1972	電気	2024年9月
柳川 幸市	1958	電気	2024年8月	百瀬 正雄	1974	電通	不明
野沢 年男	1958	電気	2025年1月	関 哲夫	1978	電気	2024年5月
喜多 弘	1958	電気	2025年1月	篠永 裕之	1980	電気	2025年4月

2025年度 理事会役員一覧

◇会長

大石 進一 (1976年卒・電通) 早稲田大学名誉教授 栄誉フェロー

◇会長代理

大木 義路 (1973年卒・電気) 早稲田大学名誉教授 名誉研究員

◇顧問

菊池 秀彦 (1980年卒・電気) 元 株式会社 TMEIC

◇副会長

総務

渡邊 孝信 (1995年卒・電通) 早稲田大学 電子物理システム学科教授
秋山 直幹 (1994年卒・電気) 株式会社 TMEIC

会計

笠井 裕之 (1996年卒・電通) 早稲田大学 情報通信学科教授
高屋 和幸 (1998年卒・電通) NTT株式会社

編集

清水 佳奈 2025年9月まで
(2001年卒・情通) 早稲田大学 情報理工学科教授
寺内多智弘 2025年10月より
(2000年卒・コロンビア大) 早稲田大学 情報理工学科教授

事業

高松 敦子 (1995年卒・東工大) 早稲田大学 電気・情報生命工学科教授
桑原 健 (1995年卒・電気) NTT株式会社

◇監事

近藤圭一郎 (1991年卒・電気) 早稲田大学 電気・情報生命工学科教授
史 又華 (1999年卒・中国東南大) 早稲田大学 電子物理システム学科教授

◇理事

総務

浜田 道昭 (1996年東北大卒) 早稲田大学 電気・情報生命工学科教授
瀧川 沙織 (2008年卒・コンピュータネットワーク) 株式会社 NTTドコモ

会計

佐古 和恵 (1998年 京都大)	早稲田大学 情報理工学科教授
市原 俊介 (1997年卒・電気)	沖電気工業株式会社
今原修一郎 (2000年卒・電気)	株式会社 東芝

編集

大久保将史 (2000年卒・東京大)	早稲田大学 電気・情報生命学科教授
小山 貴之 (2005年卒・電気)	株式会社 日立インダストリアルプロダクツ
中野 陽介 2026年1月まで (1993年卒・電気)	三菱電機株式会社
菊池 謙輔 2026年2月より (1998年卒・電通)	三菱電機株式会社
岡部泰一郎 (2008年卒・電生)	電源開発株式会社

事業

渡辺 裕 (1982年 北海道大)	早稲田大学 情報通信学科教授
西村 敏 (1998年卒・電通)	日本放送協会
網代 育大 (1997年卒・情報)	N E C 株式会社
高上 純一 (2001年卒・電気)	東京電力パワーグリッド株式会社

地方本部

浜野 正幸 (1984年卒・電気)	関西電力株式会社
本田 健一 (1989年卒・電通)	九州電力株式会社

◇幹事

森田 逸郎 (1990年卒・東京工業大)	早稲田大学 情報通信学科教授
石川 博 (1991年卒・京都大)	早稲田大学 情報理工学科教授

◇活性化委員

深川 裕正 (1963年卒・電気)	元 電力中央研究所
大井 一成 (1974年卒・電通)	元 株式会社 東芝

◇事務局長

井上 岳 (1977年卒・商学部)	元 東京電力株式会社
-------------------	------------

◇事務局員

原田 佳美	羽生 恵理
-------	-------

表紙デザイン

2025年度に開催した様々な活動（ボウリング大会・EWE講演会・EWE塾）のポスターで飾りました。それぞれの活動内容は、「EWEニュース」（15ページ）等をご覧ください。

EWE事務局：井上・原田・羽生

広告掲載協力企業

株式会社TMEIC ・ 関西電力株式会社 ・ 三菱電機株式会社

編集後記

ここ数年で生成AIの進化には目を見張るものがあります。私自身も業務の中でAIを活用する機会が急増し、文章作成やデータ整理、情報収集など、以前は手作業だった業務が効率化されつつあります。AIの利点は、膨大な情報を瞬時に整理・分析できることや、繰り返し作業の自動化による生産性向上にあります。さらに、専門知識がなくても高度な分析や資料作成が可能となり、個人の可能性が広がったと感じます。一方で、AIの判断根拠がブラックボックス化しやすいことや、誤った情報を生成するリスク、個人情報の取り扱いなど課題も多く残されています。

AIの普及は個人の働き方だけでなく、社会全体にも大きな影響を与えています。例えば、データセンターの建設ラッシュや、それに伴う電力・通信インフラの整備など、経済活動の新たな波が起きています。AIによる効率化や新たなビジネスの創出は歓迎すべきことですが、一方で雇用や働き方、社会構造そのものにどのような影響が及ぶのか、不透明な部分も多いと感じます。

AIはとても便利なので、インターネットが生活の一部に組み込まれたように、AIも手放せないツールになっていくと思います。AIの便利さを享受しつつ、リスクへの備えや使い方の倫理を考えていくことが重要だと感じています。

（編集担当理事 岡部 泰一郎）

早稲田電気工学会会報
第 67 号

2026年3月24日 発行

発行所 〒169-8555
東京都新宿区大久保3-4-1
早稲田大学西早稲田キャンパス内
早稲田電気工学会 事務局
電話 03-3232-9768
(FAX兼用)
郵便振替口座 00140-4-23500
URL <https://www.ewe.or.jp/>
E-mail jimukyoku@ewe.or.jp
印刷所 新津印刷株式会社
TEL 03-3202-4191



これまでも、 これからも。

三菱電機は、1960年代に宇宙事業に参画して以来、
宇宙インフラの発展に挑み、実現してきました。

技術を磨き、人々に豊かさを提供し続けることが私たちの責務です。

これからも宇宙事業を通して安心して豊かな暮らしを支え続け
挑戦と変革のマインドをもって よりよい未来を切り拓きます。

三菱電機の宇宙システム

TMEICは産業の原動力を担い、
「未来そのものをつくる」ことに挑む
ものづくりのリーディングカンパニーです。

製造業向け電気設備、パワーエレクトロニクス製品、
産業用モータ等、フィールドは世界中の産業が、社会が動く現場。
ものづくりそのものが、かつてない転換期に入っている今、
私たちは時代と向き合い、次のものづくりをはじめています。
産業の根幹から、カーボンニュートラル実現へ。
未来そのものまでつくりだす、その先頭に立つ。
大きく挑む。だから変えられる。さあ、一緒に。未来までつくりよう。

未来まで
つくりよう。

FOR 2050

TMEIC RECRUIT



リクルートサイトでは様々なコンテンツを公開しています



Close Up! TMEIC
～若手社員の日～

Close UP! TMEIC
～若手社員の日～

若手社員の1日に密着! 仕事風景はもちろん、ランチ事情やプライベートの時間の過ごし方も。ティーマイクで働く魅力をお届けします。



バーチャル工場見学

あらゆる産業の原動力であるモータ! 産業・社会インフラで活躍する様々なモータを産み出している、ティーマイクの工場を覗いてみませんか?



リクルート
サイトは
こちら



株式会社 TMEIC
104-0031 東京都中央区京橋3-1-1
(東京スクエアガーデン)

ティーマイク  www.tmeic.co.jp

TMEIC
We drive industry